

# 中央講演演

特245

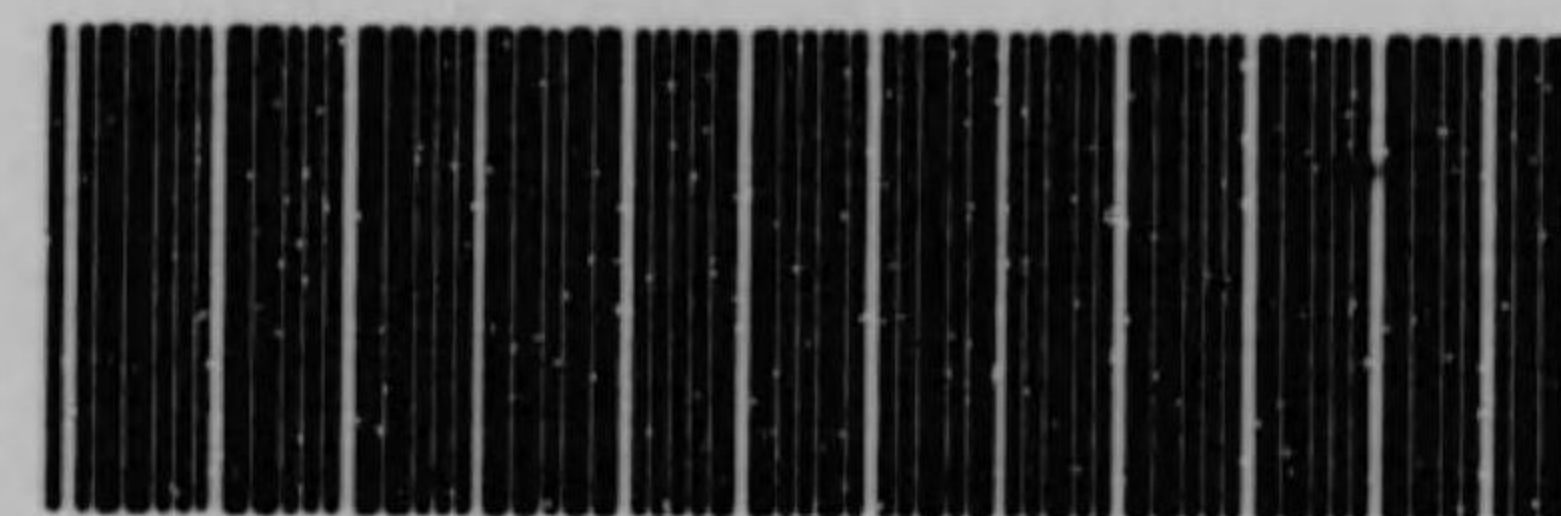
43

昭和七年五月二十五日發行

日本の動向………中野正剛氏講演

昭和七年  
第二輯

東京中央講演會發行



\*0003612000\*

0003612-000

特245-43

日本の動向

中野正剛・〔述〕

東京中央講演會

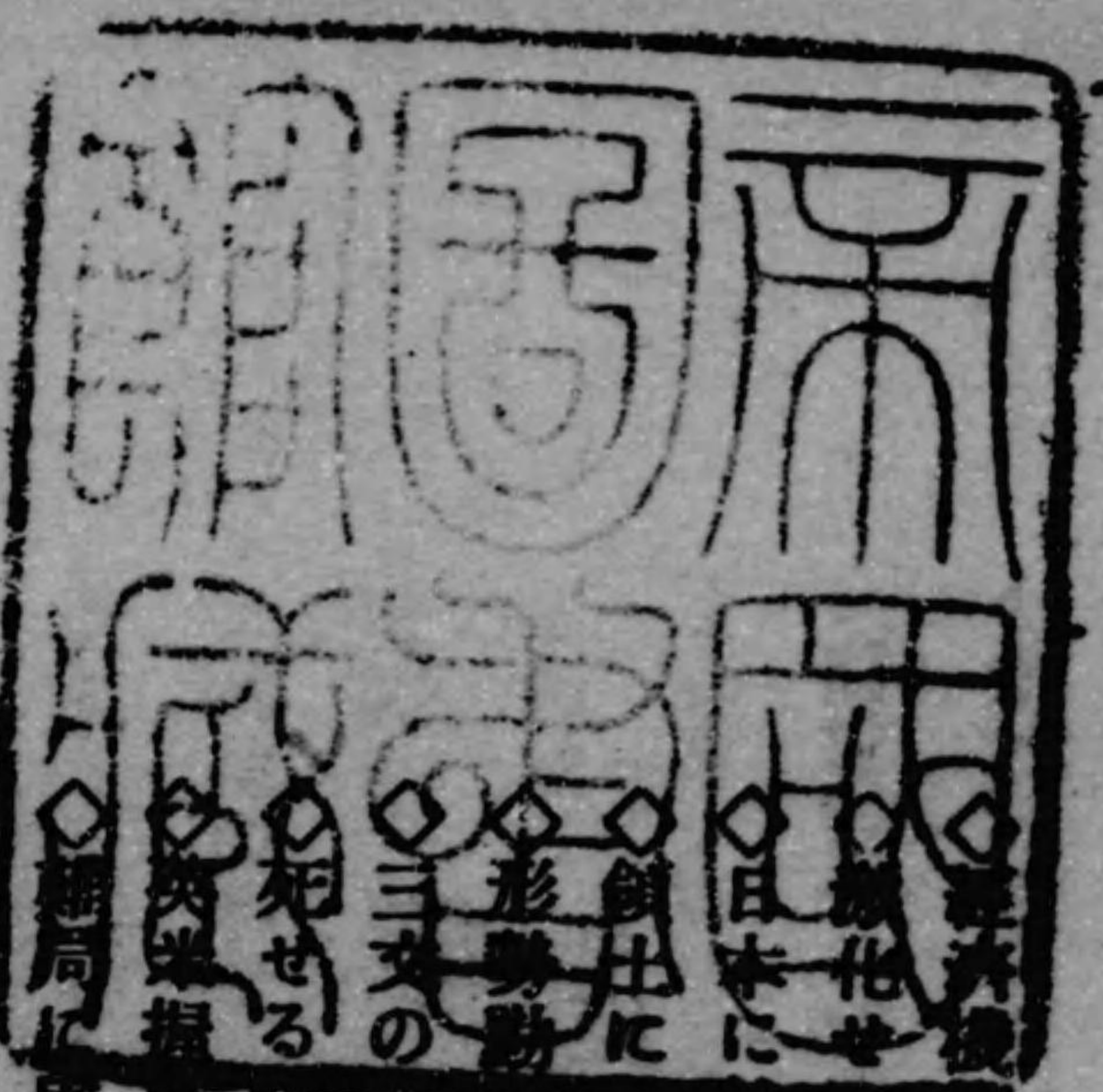
昭和7

ABA



特 245  
43.

333-408



日本 の 動 向 ..... 中野正剛氏(2)

—△目 次▽—

- ◇ 經濟機體の根底に横はる不況の根本原因 ◇ 大戦後に反動の襲來は當然
- ◇ 激化する各國の對立 ◇ アメリカの誤れる政治政策 ◇ 攻むるダンピングと守る關稅
- ◇ 日本に於ける農村恐慌の現状 ◇ 内外に對して全面的な大改革が急務
- ◇ 對する經濟正義の徹底 ◇ 支那官僚の滿洲に對する政治觀念
- ◇ 形勢對すれば逆轉せんとする滿洲 ◇ 滿洲國承認の前提に滿蒙モンロー主義の高揚
- ◇ 三つの價値なき雄辯と九ヶ國條約の本質 ◇ 九ヶ國條約を眞に尊重するならば
- ◇ 死せる法典を以て人間社會の發育を阻害 ◇ 滿蒙モンロー主義は既に爛熟せる事實
- ◇ 英米握手して武力干渉をなし得るか ◇ 英米露の提携は杞憂なり
- ◇ 關局に屬する外交方針の秘訣 ◇ 大衆生活の保障と滿鐵問題
- ◇ 大衆生活の保障と石炭問題 ◇ 大衆的滿洲發展の爲に統制經濟の樹立
- ◇ 生産力の増進と統制主義 ◇ マルキシズムが讀損はれて日本に與へた損害
- ◇ 自由主義經濟論と統制主義經濟論の衝突 ◇ 國民運動を基礎としたる政黨の出現を望む





# 日本の動向

前通信政務次官  
代議士

中野正剛氏講演

五月七日 於 青山學院講堂  
主催 高等學部學友會經濟學研究部

## ◇經濟機構の根底に横はる不況の根本原因

諸君、今日は世界到る處深刻なる經濟界の不況と、生活難、失業苦に襲はれて居るのであります。世界第一の富と繁榮を誇つた米國でさへ千數百萬の失業者が出来、是を減ずる方法は見出されないで益々増加せんとする勢ひであります。アメリカのスティール製鋼を代表する有力なる經濟界の人物はスティールの前途に付て觀測を下して「今や實に不況のドン底にあつて、アメリカの製鋼業は僅かに二割だけ働いて八割は休んで居ると云ふ状態である。併しも

う不況はどん底であると思ふ。過去に於ても不景氣が繼續した後には好景氣が來るのが常であるから、もう此處らで恢復するを信じて疑はない」と斯う言つて居るのであります。それは鐵屋のオーソリティーが現在の苦しさから、好くなることを信じて疑はないと云ふのである。自分だけで疑はなくとも世界の經濟界が遂に轉ずれば、そんな氣休めのことを言ふて居つても駄目であると私は思ふのであります。そこで此の世界的不況と云ふものは貧乏な國にも來るが金持の國にも來る。日本のやうな領土、資源の貧弱なる國にも來て居れば、アメリカのやうな豊富な國にも來る。其の經濟界の不況の由つて來る根本原因は、今日の經濟金融機構の根底にあると云ふ議論が段々世の中の信用を得るに至つて居るのであります。グラフス其他の學者は、どう云ふ風に説明して居るかと言ひますと「凡そ世上に存在する物資の總價額と云ふものは、同時に世上に現はれんとする購買力の總和よりは常に多い。何となれば購買力は主として賃銀及び俸給から成立つて居るが、世上に賣らうとする品物の物價の中には原料の價、賃銀、俸給を支拂つたものに、資本家の利潤が加つてゐる。そこで現存する貨物の總價額は、詰り利潤の額だけ購買力を超過して居る。そこで一遍生産されて、それが消



費されると其處に其の超過して居る價額だけの物資が残る。其の物資が利潤である。其の利潤は消費せられずして、或は生産設備の中に加へられ、或は貯蔵せられて他の産業部門に投資せられて行くのでありますからして、利潤が取られて、生産機關が擴大し、而して生産せられたるものが消費せられ、同じ過程を循環して行く間には、購買力と生産力の間に多大なるギャップを生じて來て、遂に此のギャップは大なる生産過剰——是は生産者側から言へば生産過剰であるが、一般の買ふ方から言へば、購買力の不足である——を馴致して、遂に世界の恐慌、不況を作り出すものである」と斯様に説明して居るのであります。私は此の議論を信用致します。偕て此の議論から段々發展し來つて「斯の如くして生産力は増大し、資本家は利潤を得て益々富み、一方購買力は枯渇し、失業者が續出する。斯う云ふ状態を進めて行つた後には社會は大變革を起し、大破壊に陥らなければならぬ」と斯様に警告して居るのであります。此の大破壊を防ぐ唯一の手段はどこにあるかと言へば、國の力に依つて此の購買力と利潤との間に再検討を加へ、再調査を加へて行くより外にはないのであります。即ちどうすれば宜いかと言へば、資本家の得る利潤の最高率を決定してしまふ。さうすれば餘計利潤

を得て、是で以て生産を無暗に擴大することは出来なくなつてしまふ。一方に於て賃銀の最低率を決めてしまふ。さうすればそこに資本家の労働者に対する挑戦は、成功することは出来なくて、一定の賃銀以下で働く者はなくなる。随つて賃銀を低下せんが爲に、産業豫備軍を餘計作らなければならぬと云ふやうな無理な政策を執ることは要らなくなる。而して最低賃銀が決まつて居るから、最低購買力が決まつて居る。併ながら機械が發達するに伴つて、機械の生産力が増して行くと、最低賃銀を得て働く人々が、従前と同じ時間だけ働いて居れば、購買力は昔の儘でありながら、生産せられるものは餘計になり、生産力は増大してしまふ。そこで此の機械能力が進むと共に、働く所の最長時間を決めて、時間の制限をしてしまふ。斯う云ふ風にすれば、此の購買力と生産力との間のギャップが取除かれて、そこに不況を生ずる原因はなくなつてしまふ。斯う申しますと、甚だ愉快な話になつてしまふのであります。お前達は働け〜と云ふのが今迄の教育であつたのが、お前達は五時間以上働いてはいかぬ、三時間位になるだらう……。お前達は儉約しろ〜と言つて居つたのも儉約してはいかぬ、相當の物は買はなければならぬ、ビールも一日に三本位は飲まなければならぬ、牛



肉も一日に六十匁位は食はなければならぬ、洋服も少なくとも學生は一人前の、五十圓位の洋服は着なければならぬと云ふ風になつて來ると、一体世の中は樂になつて來るのであります。借てさう云ふことをやつて居る安樂な一つの限られたる國が世界に存在して居るとさういふ都合の好い處を目懸けて世界の他の國が大いに挑戦して來る。相當の物價、相當の商品、相當の購買力のある國、斯う云ふ國が、今日の如く深刻なる不況の際に一つあつたとすれば、其の國目懸けて外國の安い品物が入つて來る。日本人は能率を發揮せぬやうにして居る處へ、外國の能率を發揮した所の工業生産品がズン／＼入つて來る。其の工業製品は、原料に加ふるに外國の勞力を以てしたるものでありまして、其の生産品がズン／＼入つて來ると云ふことは、即ち外國の勞働者が泥足を以て日本に飛込み來り、日本の勤勞階級を失業者の群に突出してしまふと云ふ結果になつて來るのであります。一國だけでさう云ふことを考へて居ると、國際貸借の根本が破れてしまつて、外國の經濟的侵略を受けなければならぬと斯う見なければならぬのであります。而して今世界を見渡すと、此の侵略主義的、闘争主義的の經濟關係は益々其の對立を尖鋭化して居るといふのが今日の姿であります。何故一体

斯う云ふことになつたかと言ふと、各國各々最前申しました營利主義の經濟方針に依つて國を建て、居ることが根本の原因である。更に又歐洲大戰の苦しみによつて、此の對立の勢ひを一層擴大強化したことも考へなければならぬと思ふのであります。

### ◇大戰後に反動の襲來は當然

諸君、歐洲大戰は四年半の長きに亘つて破産を逞しうした。交戦列國は其の産業能力全体を傾けて武器、彈藥を製造し、それが毎日々々東西の戦線に於て煙となること四年半、此の軍事の爲に工業を動員し、又壯丁を戦闘の爲に動員した結果、日用必需品の生産と云ふものは衰へざるを得ぬ。そこで是等の國の人々は、働きを毎日二倍し、三倍にして此の内外の需要に應ずべく奮闘すると共に、戦争に参加せざる、或は第二次、第三次的に参加して居る遠方の國々は、此の大破産の際に必要な世界の必需品を製造することに馬力を掛けてズン／＼其の念に應じたのであります。斯の如くにして戦争は四年半繼續せられた。世界はあの大破産を續演しながら、尙ほ生きて、喰ふてやつて行つたのであります。其の生きて喰ふてやつ



て行く爲には、世界はどの國もどの國も、インフレーションをやつて居る。此のインフレーションに依つて、本質的でなく、紙幣で計算した所の價値の騰貴を一つの誘惑として、ズン／＼列國の人々の働きに鞭を入れて行つて、四年半の久しきに涉つて破壊と生産とを繼續したのであります。交戦列國は外國品を買ひながら戦つて行くのでありますから、必然的にそこに大なる儉約が行はれたのであります。儉約しながら奮闘したのであります。又爾餘の列國は、インフレーションの勢ひで紙幣物價の誘惑に鞭を當てられて、グン／＼生産に力を入れて来たのであります。斯の如くして世界は、兎に角破壊と生産と兩方ながら無事に四年半繼續することが出来た次第であります。是が済んでしまつた後に於て、大いに其の反動が来るのは當然であります。此の反動が来ないやうにするには、そこに大なる政治的見識が必要であつたのであります。アメリカのヴァンドリツプと云ふ人は、大戦後歐洲に使用して、此の經濟状態を具さに視察し來つて「此の債戰爭を終へて、獨逸に多大なる賠償金を課して、其の賠償金を列國が分取りし、其の分取りの背後には戰爭中の債權國があつて、其の債權を取立てると云ふことになつたならば、世界は大戦後後に、尙ほ甚しき經濟戰爭を繼續せなければ

ならなくなる。須らく獨逸の賠償金は之を棒引にすべし。千三百二十億と云ふ多大なる賠償金は一國の到底償ひ得る數字ではない。同時に此の賠償金に依存せざれば、戦後恢復し能はざるやうな戦勝國に對しては、先づアメリカが主唱國となつて、戰爭中の債權、債務を棒引にしてしまふが宜い。賠償金を棒引にし、債權、債務を棒引にし、同時に世界は對立せずして融和するやうに、關稅の障壁を低くして、是から一遍石版を清らかに拭き上げて後に、新たなる世界、共存共榮の生活方法を石版の上に書き付けるより外に途がない」と云ふのが彼等の議論であつたのであります。然るにそんな議論は、弗の國アメリカに於て成功する理由なく、さう云ふ議論は採用せられずして、現に御承知の如く、歐洲講和條約が成立し、次いでドーズ案、ヤング案と云ふが如き、一種の獨逸に對する債權取立法を中心としたる所の協定が出来上つて、それが最近に至る迄進行して来た次第であります。そこで獨逸から償金を捧り上げる、獨逸はヤング案に依りましても、年額十億圓の償金を六十年間繼續して支拂はなければならぬ。而も六十年後には緩和されるかと云ふと、さうではない。其の頃には獨逸の國力も大分恢復せられるであらうから、もつと割増して取立て、やらうと云ふのが、一番



緩和せられた、寛大なる態度に依つて考へ直はされたと云ふヤング案の本質であります。

### ◇激化せる各國の對立

斯んなに押られては獨逸は遣り切れない。大戦争の結果、アルサス、ローレンス、ザールを皆取られる、其の船舶は取られる、機關車も取つて行かれる。斯うまでやられて置いて、而も毎年々々十億圓取られると云ふことになつては、獨逸は所謂臥薪嘗膽しても之に應ずることは出来ない。即ち獨逸は一生懸命になり、非常なる動勞、而して非常なる勉強——科學技術總ての力を武装して一生懸命で之に應ぜんとした。應じた結果は生産費を切下げて、安い品物をドン／＼海外に輸出した。之に依つて脅威を蒙つたものは、獨逸から償金を取立て、居るフランスであり、英國である。彼等は獨逸から賠償金を取立てることに依つて獨逸の動勞を激化し、生産力を増大し、其の低物價製品を賣付けられることに依つて又金を取られなければならぬ。斯う云ふ矛盾に達着して来た。それが悔やしいと云ふので、フランスも英國も大いに儉約し、所謂大戦後の世界の經濟情勢に適應すべく、獨逸の産業組織、アメリカ

國の大量生産を採用して、其の經濟機關を新しく武装し直ほすことが出来たのである。其の獨逸、其のフランス、其のイギリス、何れも四年半戦争に打突かつて、窮乏に耐へ切つた困難を経來つた國民でありますからして、戦後の經營に於ても非常に力を出すことが容易であつた。彼等は戦争中の困難を体験し來つた其の勢ひ、其の氣持を延長して、茲に引締めた所の對立を激化するに至つたのであります。斯う云ふ風に諸國舉つて低物價政策をやり、儉約をやる。是で互に經濟戰を繼續して行くと云ふことになり、其の生産力は夥しく増大せられ、其の購買力即ち消費力は著しく低減せられて行くのは自然の勢ひであります。此の競争の中に於て、大戦中各別の努力もせずして、戦争の餘澤に潤ふて膨れ上つた日本の如きは、彼等が戦争中の苦しみを延長して生産に利用し來るに及んで彼等に對立し能はざるに至り、大いに脅威を蒙り、打撃を受け、崩壊を來すに至つたのは、是亦已むを得ざる勢ひであります。是が世界の情勢である。而もアメリカはドーズ案を組立て、ヤング案を組立て、英國に同意せしめ、フランスに同意せしめて、獨逸に臨んだが、其の根底はどこにあるかと言へば、取立條件を稍々緩和して獨逸を控らうと云ふのである。アメリカの案に對して英國も



一緒になつて獨逸に資本を投じてやらう、其の投じたる資本を以て獨逸人に組織的に使はしめて、即ち獨逸と云ふ牝牛に水を與へて牛乳を搾つてやらう、是が其の方針であつた。斯の如くにして獨逸に投資し、獨逸人を働かせ、それから償金を取立て、之を分けて行かうと云ふ一種の搾上げ主義を執つて來た。米國は獨逸に投資するばかりでなく、其の後、世界を一つ立直はして置いて、立直はすと共に其の利益をアメリカに取つてやらうと云ふ考へを起したので、獨逸に投資するばかりでなく、世界列國に大いに投資して其の立直ほしを助長すると共に、是より生ずる利益をズン／＼自分の國に吸ひ取らうとする。畢竟大資本國が債務國に向つて投資する時にはどう云ふ現象が起るかと言へば、例へば獨逸が一億圓程アメリカから金を借りると云ふ時には、其の一億圓を獨逸に持つて行つて使ふのではないのであります。其の借りた金は、其の儘アメリカの銀行に預けて置いて、必要な額だけを其處から引出す。其の必要な額は主として何であるかと云へば、獨逸の産業立直ほしの爲に必要な設備をアメリカで購入することでありますからして、そこでそれをアメリカに支拂つて、アメリカで物を買つて歸る。即ち金を借りれば略々借りただけの額の品物を其の國から買ふと云ふ勢

ひが作られるのであります。即ち債權國は何時でも二等國、三等國に金を貸して置いて、其の貸した金額だけ自國の生産品を賣出すのであります。即ち投資は輸出貿易を助長するのであります。アメリカは列國に投資しながら、自國の輸出貿易を助長して行つた。獨逸にも投資しながら輸出貿易を助長して行つたのである。斯の如くにしてアメリカは金を貸すと共にアメリカの物が賣れ、物が賣れるから儲かる、儲かるが故に大いに生産する。米國の一番盛んな都市は毎年々々三十億圓も外國に貸出した。其の貸出ただけアメリカの品物が餘計賣れる、賣れるからしてアメリカでは大いに利益を得る、利益があるから其の利益を、更に産業設備の上に加へて行く。そこへフーズアーの如き大統領が現はれて、世界の經濟をフーズアー風の即ち實業家風の營利經濟で考へたのであるからして、此の勢ひで行くならばアメリカは何處までも富んで行く、もつと富みますが爲には、アメリカ品は外國に賣れるが、外國の生産品はアメリカに成るだけ入れないやうにさせよう、即ち投資政策、輸出増進政策、之に伴ふ輸入防遏政策の爲に、高い關稅をかける政策を執つて來たのであります。現にアメリカは世界の金の半ばを保有し、世界の最大繁榮を誇りながら、其の關稅障壁の高いことは、彼のス



ペインと共に世界の第一位に居るのであります。

### ◇アメリカの限れる政治政策

その結果、どう云ふ現象が起つたか。アメリカは外國に資本を投ずる、投じただけアメリカの品物が賣れる、賣れるからしてアメリカの生産が擴大せられる。然るに借りた國はどうするか。アメリカから借りて行つて産業を立直ほし、其の出來た品物を又外國に向つて賣らなければならぬ、第一最も富めるアメリカに買つて貰はなければならぬ。然るにアメリカは金を貸し、輸出は増進する、而も外國品は障壁を高くして買はないやうにする。是がアメリカの最も限れる政策の發端であります。イギリスの如き數世紀に亘つて世界最高最強の誇りを有して居つた國は、チヤンと斯う云ふ時に處する所の一つの方針を有つて居つた。是がイギリスの最大繁榮期に於ける所の所謂フリー、トレード(自由貿易)であります。イギリスは世界第一の産業界の巨人である。其の産業の後ろに世界第一の海軍を持つて居る。あの大量生産あの進んだ技術を以てイギリスが生産したものを二流三流、或はまだ産業國となつて居ない

國に向つて自由に之を賣買する。即ち自由貿易で賣買して行くなれば、此の巨人と二流三流の國とは大人と子供の喧嘩のやうなものであります。イギリスの産業のフリー、トレードと云ふことは、イギリスが大變不況であつた際に、世界に對して頗る僞善的に自由で行かう、武装しないで行かうと云ふ、其の實は大人が子供の前に雙方武装せずして立つて行かうと云ふ遣方でありますからして、甚だ都合が好い。イギリスは其の自由貿易の後ろに最大の海軍を以てお目に掛りたい……と。中々イギリスの自由貿易、イギリスの平和論と云ふものは、生まやさしいものでない、イギリスの認めて以て公平となす所の政策に同意せざる國に對しては覺悟がある。覺悟は何時もあるからして滅多に口には言はない。大きな海軍を後ろに持ちながら、イギリス一流のニタ／＼笑つて、ゼントルマン風な顔をしながら、其の偉力を有つて行つたのがイギリスの自由貿易であります。それでもイギリスは嘘から出た眞で、自由貿易の間に到る處に資本を投資し初めた、投資せられた資本が到る處に於て發育し初めた。而して其の投資せられた諸國はイギリスから金を借りて居るから、随つてイギリスから物を買ふ、其の借りた國同志には互に貿易する、又借りた國からイギリスに向つて輸出をするか



ら、即ちイギリスを中心として此の債務國、甲乙丙丁相互の間に關係を生ずるのみならず、イギリスに向つても輸出入の關係を生ずる。此の時に於て英國はさう急に保護政策に變らな  
い、矢張り自由貿易説に依つて相當に外國の物を買つてやる。外國に投資すれば、其の資本は  
相當に生きて行くやうに採算を見てやらなければならぬ。斯う云ふ政策を執りましたからし  
て、甲乙丙丁皆イギリスに借りて居るが故に、是等の貿易はイギリスに於て最後の決濟をし  
なければならぬ。又英吉利に對する貿易は、イギリスの金融に依存しなければならぬ。斯の  
如くしてイギリスは、自由貿易、自由投資、斯の如き方針を世界に宣揚して、大いにゼント  
ルマンらしく闊歩しながら、随分長い間其の富を享樂することが出来た。世界の大国たるも  
のは、是位大きな權力と、此の位一見すれば寛大なるが如き態度位は備へて置かなければな  
らぬものであると私は思つて居る。然るにアメリカの成金はイギリスよりはズツと淺薄であ  
る。それ故にイギリスの如く、甲乙丙丁の諸國に貸しながら、其の國を繁榮せしめ、其の國の  
貿易の決濟を司つて金融の中心となり、自己も富み、世界も富んで行けるべき立場に居つたに  
も拘らず、アメリカは自ら進んで世界中心の金融市場となる所の權能を發揮せずして、却つ

て關稅の障壁を高くする、外國品を買はなくする、而してアメリカ品を輸出する。アメリカ  
は金を貸す、貸すから儲ける、儲けるから富む、而して産業を擴大する。斯の如くして外國  
は益々貧しくなる。其の結果アメリカの資本は外國に出て行つて産業に投資するよりは、本  
國に投資した方が大いに儲かるからと云ふので、外に出て行つた資本が再び内に歸つて來る  
斯の如くにしてアメリカは彌が上にも生産を擴大して遂に一千九百二十九年の一大膨脹の後  
の一大バニツタを來した。何故かと云ふと世界中の富を吸ひ上げてしまつて、世界の物を買  
はないと云ふやうにした爲に、世界の購買力は落ちたのでありますからして、アメリカの品物  
を世界が買はなくなる。資本は無限に投ずるが外國に投ずるよりも本國に投ずる方が有利で  
あるから外國に資本が出なくなる。即ち投資に依る所の輸出と云ふものは減する。是が爲に  
アメリカは所謂外を枯してしまつたからして、内が枯れて來る。是がアメリカに一大不況の  
襲ひ來つた最大所以であります。其の根底はフーズに依つて考へられたる營利主義會社  
を經營するやうな營利主義方針を國家の政策の上に執つた過ちに出發するものである。



### ◇攻むるダンピングと守る關稅

一体、國とか社會とか云ふものは、國、社會を富ますべき所のものが中心でなければいかぬ。政治——政治家と云ふものは自ら苦しみながら社會全体を良くしなければならぬ。營利會社はさうではない、社會が貧乏になつても、どうなつても會社だけ營利主義に沿ふやうにしなければならぬと云ふのである。是は即ち己の營利が中心であつて社會は第二次的である。即ち國は國民の安寧幸福、是が第一次であつて國家の、而して其他の政策は第二次としなければならぬ。是を擴大すれば、世界に富を永久に誇らんとする者は、世界の富を増養することを考へなければならぬ。然るに會社が營利主義で社會の財物を捧り上げる如く、アメリカの政治其ものが一つの營利主義となつて世界の財物を捧り上げて置いて、他に利益の均等を許さざるが如き政策を執つたからして、こゝに世界の不況となり、其の世界の不況が反映してアメリカの不況となり、今日備むが如き情勢を來したのであります。之をどうかして打破しなければならぬ。斯う云ふことにならない前に、ヴァンダリツプは豫め警告して居つた。其のヴァン

ンダリツプの言つた所は用ひられなかつた、用ひずしてドーズ案よりヤング案に至り、大分形の上に於ては緩和せられましたけれども、依然として營利主義であつて、外國を捧つて自ら富まんとする政策の爲である。此の世界の不況はどこ迄進み行くか分らない。此の不況が進化するに伴つて、アメリカの如く列國も亦關稅を高くし、國內の産業に向つては補助金を與へる、補助を與へて大いに生産させる、大いに生産させることに依つて、其の生産したる所の品物を外國に向つてダンピングを行ふ。ダンピングは即ち國內の失業群を商品の形に變へて外國に送り出すことであります。ダンピングの行はれた處の國家の産業は打撃を受ける即ち産業に従事して居る所の勤勞階級は失業しなければならぬ、即ち失業者を本國から外國に送り出す所の政策がダンピングである。ダンピングは攻めることである。守る時には關稅、攻むる時にはダンピング、是で對立して居る。此の對立を段々地域的に惹き起すやうになりまして、アメリカはモンロー主義を中心として、南北中米を打つて一丸とする所の經濟プロツクを作り、之を以て世界を横行しようとして居る。イギリスは日没を見ざる大英帝國をば經濟的に武装して一つの經濟プロツクを作り、フランスはエリオと云ふ人に依つて書か



れたる、あの「歐洲大陸聯邦論」、之を基礎として歐洲大陸の上にフリー、トレードを行ひ、歐洲大陸の上のみ自由金融政策を執つて、此の大陸をフランスの覇權の下に集めて置いて、經濟ブロックを作成しようと云ふ政策を執つて居る。之に對してソヴエット、ロシアは全然經濟組織を異にする所の制度に依つて、此のソヴエット、ロシア其ものを武装して全國民を飢餓線の近くに彷徨せしめながら其の勤勞の結果を悉く搾取する、搾取するものは資小家に非ずして國家である。此の國家は不當利得をするものでなくして、國家の搾取したる所の利潤は再び國家の産業の爲に投ぜられて、最後に於ては全ロシア人の幸福を増進するものである。斯う云ふ建前の下に非常なる激勞と、非常なる儉約とを以て、ロシア一つが經濟集團をなし世界に對立して居ると云ふ情勢であります。日本は斯の如き情勢の前に立つて居るのであります。そこに於てか、日本國內だけで何か考へて不況對策を講じて見よう、不況に依つて來る所の原因は購買力の凋落にあるからして、購買力を増進する政策を講じて見よう、斯う云ふ風に考へても世界が押掛つて來るから中々容易に行かない。恰度日本は大道の眞中に立つて居るので、ロシア、アメリカ、イギリス、フランスと云ふ大經濟集團のステーム、ローラー

が左右前後から押掛つて來るやうな状態でありますから、どうすることも出來ない。今迄は日本は激しく勤勞し、乏しく報酬せられ、其の勤勞の結果を捧げて世界經濟に奉仕する。斯う云ふ方針を執つて來て居りますけれども、其の日本人の敬虔なる報酬すら列國は受けない日本の安い製品を完全に叩き付けてしまふ、日本の經濟に少し餘地があればダンピングを以て叩き付ける。而も日本は之に對立しようと思つても、此の狭い國土の中にあつては、國內の經濟的需要を尤すことすら甚だ困難である。斯う云ふ情勢の下に置かれて居るのであります。是故に此の内外の情勢を見ながら、日本今日の不況對策、日本今日の國民生活の前途を開すると云ふ方策が講ぜられなければならぬ。外と内と一緒に並んで、外に向つては即ち賠償金、戦債の棒引、或は又列國の關稅低下策と云ひ、或は最近に於て講ぜられて居るが如き、世界の銀相場の安定策と云ふが如き、世界に對する要求を高調して世界の空氣を指導して行くことと云ふことが一つ必要である、又内には是と同時に國民全体の購買力を増進すると云ふ經濟政策を同時に立てなければならぬ。内だけでは旨く行かない。井上前大藏大臣が金輸出解禁をやり、低物價政策をやり、其の安き物價に依りて安定せる爲替を利用して、大いに輸出



増進を圖り、外國から金を取り入れて来て我國を富まして行かう、國際貸借を改善し、有利にして國の經濟を立直はさうと云ふ政策を執りましたけれども、其の時に當つて世界は一層不況になつた、不況になると共に世界は關稅政策を講じて、高い關稅に依つて日本の輸出を受けない。日本の物價が下つても、重い關稅をかけられ、ば外國に入つた時には高くなる。井上さんの低物價輸出増進策は、世界の不況と列國の關稅政策とに打突かつて遂に失敗してしまつた。高橋さんが其の行詰りの後に金輸出再禁止をやつた。再禁止に依つて爲替が暴落する、低落することに依つて日本の品物が外國に出て行く時には安くなり、外國貨幣の日本に對する購買力は増進する。之に依つて日本の輸出を大いに増進し、行き詰つた産業に活氣を興へやうと意氣込んで居つたのでありますが、日本が金輸出再禁止に依つて其の貨幣價值を落し、之に依つて列國と貿易に於て對抗して行かうとすれば、世界は之を防止する爲に金輸出禁止國に對する所の特別關稅を設定して、なか／＼容易にそれ等の品物を入れないと云ふので、なか／＼旨く行かない。そればかりではなく、世界皆對立しながら、世界みな悪化するのでありますからして、あれだけ爲替が下つたに拘らず、アメリカに對する所の生絲の賣

行きは益々悪い。一時は十數圓したる所の商が、今や僅か二圓に暴落すると云ふが如き情勢を眼の前に見るに至つて居るのであります。

そこで不況對策は、世界を見渡すと同時に國內に對して講じて行かなければならぬ。部分的にやつては何もかも失敗する、是は明白なる眼前の事實となつて來て居るのであります。

#### ◇日本に於ける農村恐慌の現状

最近日本の農村恐慌と云ふものは非常なものであります。此の間私は専門家に依つて説を聽きました、農村の負債が六百萬戸に於て六十億圓あると傳へられて居る。私は此の六十億と云ふ數字を以て、何時も農村負債の大なることを説明して來て居つたのであります——是は國債ではない、農村の私債であります。——然るに何時の間にか増して行つて、農村の負債は既に七十二億圓になると云つて居ります。此の七十二億圓になる農村の負債は、實に激しく農民生活の上に影響し來つて、一戸一千二百圓若くは一千數百圓の負債を背負ひ込んで居るが、此の利子たるや年額一割二分多きは二割數歩を拂ふと云ふことになつて來ると、



到底立ち行かない。此の對策として現に考へられて居るのは、不動産金融論であります。併し今のやうな制度の下に於て、不動産の證券化をやり、之に金融を與へると云ふことにした所で、利する所のものは地方の銀行である。地方銀行が之に依つて息をつきますと、地方の預金は引出されて中央の大銀行に集つて来るより外ない。土地の證券化、地方銀行の救済、農村金融の緩和、色々唱へて來ても中々旨く行かぬ。私が斯の如き議論をなすと専門金融家は曰く「是からは勉強すれば宜しいのだ、今迄は懶けて居つたからいけない。今度金融を付けて一先づ緩和してやる。之に依つて地方の銀行が救はれると、改めて餘力を以て地方に金融を付けることになつて来る。農村に於ては副業を營むべきものである」と云ふことを仰々しく述べて居りましたが、農村が副業をやらなければならぬと云ふやうなことは銀行家が今更説明する迄もなく、農民は生活の必要上から夙に其の位のことにはやつて居ります。やつて／＼やり過ぎて居るのであります。農村の不況の爲に茨城縣に於きましては豚を飼へ／＼と奨励した。立派な二十貫も三十貫もの豚を作る、其の豚を育てる爲には、醬油穀を二、三十圓も食はさなければならぬ。値段は二掛と云ふのだから、二十貫のものが四圓、三十貫

のもので六圓、大きな豚でも精々四圓か六圓にしか賣れない。それでさへも買つて呉れない賣るのは馬鹿々々しいからして、毎日々々餌を食はして飼つて居る。併し損失が大になるから自分で食つてやらうと思つても、日本では豚を個人として殺すことは法律上出来ない。チヤンと屠殺場に持つて行かなければならぬ。屠殺場に持つて行くと屠殺賃を三圓取られる。其の三圓が拂はれない、と云つて自分で殺して食つて居ると法律違反になつて罰金を喰ふ。仕方がないから利根川に行つて溺れて死んだと云ふやうなことを言ふて隠れて食ふ。鶏を養へば非常に都合が好いと思つて居ると、滿洲事件や金の輸出再禁止の結果輸入する所の鶏の飼料がウンと高くなる、飼料が高くなつた頃は鶏が非常に多く飼はれまして卵が生産過剰となる。此の頃農村に行けば卵一つが一錢もしない、一錢位で賣つたつて引合はない、引合はないからと云つて食つてしまへば尙ほ更引合はない。(笑聲)それならば都會に於て、労働者、勤勞階級、殊に學生、皆んなが豚を食ひたい。斯んな安いものを吾々に食ふやうにしたらよからうと思ひますが、此の豚を都會に持つて行つて販賣するには、今日現存する所の組織がありません。其の組織に依りまして、中間階級が利得する、組織の中に働いて利得をする人々の



背後には金融上の利得をする色々な関係があります。斯の如く農村では四圓、六圓で賣ることも出来ない二十貫、三十貫の豚があるに拘らず、都會に於ては豚も豚に食へない人間が非常に澤山居ると云ふ矛盾を生じて居るのであります。そこで此の頃は米が餘り安いと困るか  
らして、米だけ高くする、米の高くなる政策を講じてやらう……と。處が米を高くする政策を取れば肥料を高く賣り付けやうと云ふ商賣人がやつて来る。米が高くなり、肥料が高くなると肥料屋に金を貸して置いて儲けやうとする階級が又背後に必す居るから、中々旨く行かない。斯の如くして一つの政策をやつても中々成功しない。山本農林大臣が蠶絲對策をやつても是も成功しない。又米を高くする、是亦成功しない。肥料政策を執る、是亦成功しない一つ／＼別に考へた所で中々成功しない。究極する所は此の經濟界に存する所の矛盾を一時に、總體的に、全面的に修正して行くより外に今日の不況に對する政策はない。それを國內的に修正するのみならず、國際的に呼び掛けて行く。併し中々一朝一夕に出来るやうな容易なことではない。さう言つて居る間に不況は益々深刻化する。一番危険な長野縣に於ては、先般北信八州の大會がありました、農民等はみな集つて、農村モラトリアムを絶叫して居る。

此の會場に現はれて「我黨内閣の政策は……」と言つて演説しかけた政友會の有力なる政治家は、殆んど袋叩きに遭はんばかりに苛められた。此の大會に臨んで「我黨は……」と言ひかけた無産黨の闘士は、「我黨だけは止めて呉れ、貴様の政黨の爲に利用されることはもう飽きた」と言つて騒いで居る。斯の如くにして此の人々は「農村モラトリアム即時實行」を叫んだのである。農村モラトリアムに依つて七十二億圓を拂はないと云ふことになると、日本の金融機構は茲に破壊されてしまふ。洵に恐ろしいことである。併ながら其の「恐ろしい」と云ふ言葉が聞くも恐ろしい暴言であります。現實は「恐ろしい」と云ふ言葉に先だつて進んで來てゐる。農村の何處に金を返へし得る者が居るか？事實に於て農村のモラトリアムは、正に大半行はれつ、ある、と云ふのが今日の現状であります。斯の如き現状を見渡すと内に外に全面的大改革が必要となつて来る。此の全面的大改革を偉大なる決心を以て實行するより外に、個々の政策をやれば益々個々の矛盾を甚しからしめて、遂に行き着く所に行くより外にない。私は切かに憂慮し、觀察して居る次第であります。私共は全体を考へなければならぬ。今日我國には政治なき眼前の行政しかない。大局の見極めなき、眼前の彌縫策し



かない。之を憂へる者は大局を見極めて、眼前にぶつかつて来る問題は、其の大局の一部分として、片端しから綺麗に解決して行かなければならぬ。大局、と言へば眼前のことは勿論のこと、個々の問題を逐次に解決することに依りて、之を大局に歸納する、是が今日の必要であると私は思つて居るのであります。

#### ◇内外に對して全面的な大改革が急務

それで、今や兩大政黨が殆んど無能力を發揮した。二百七十名の民政黨は吾々の志に沿ふ能はず、何等爲す能はずして倒れた。後に至つて三百數名の政友會現はれて再び何することも出来ない。無能技に至つて極まつて居る。技に於てか、異つた立場から、世の中の眼前の機運に應ずべき一つの政治的實力が現はれて來なければならぬと私は信じて居る。併し當世の呼聲に連れて、それならば現状を立直さすべき具體案を示すと、其の具體案たるや曰く肥料、曰く米、曰く借金整理、曰く豚、曰く藪と、さう云ふ風に一つ／＼示した所でどうにもならない。農村がそれ程窮乏して居るならば、私曰く、今日に於て耕作地租全免をやれと、耕

して居る所の地租全体を免除してしまふ。そんなものは僅かではないが、たつた三千五六百萬圓ぢやないか。では其の代りの財源はどうするか。それは譯はない、奢侈税をかけ、相続税を増加して、それで以てやつて見る、譯はない。さうすると財務専門家、大蔵省の關係たちは反對して曰く、地租と云ふものは最も堅實なる財源である。然るに奢侈税とか、相続税とか云ふ不堅實なる財源を以て之に代ふると云ふことは日本の財政の基礎を危くするものである。あんな大經濟論をするが、外の財源が確實にあると云ふことは分らない。それ故にさう云ふ議論をして見た所で架空の議論であつて、三千何百萬圓の財源がなくて、さう云ふことを云ふのは煽動政治家だと云ふのであります。今日百貨店の進出に依つて、都市の小賣商人が困る、デパートメント、ストアが進出して來て、大きなビルディングの中に大資本が經營し始める爲に小賣商人は困つてしまふ。併しそんなことは譯はない、大資本の大きなビルディングを國家の手に依つて建て、其の中に魚屋さん、八百屋さん、果物屋、肉屋何でも構はぬ、みんなに貸してやることに依つて、其の物資の原産地と聯絡を取り、安い品物を仕入れさせてやる、而して之に公定物價を付けてやる、さうすれば必然的に没落しつゝある小賣



商人は、事實に於て國家の配給機關の一部分として働くことが出来る。斯の如き轉向策を講ずるに譯はない、金を出せば宜いではないか。國から金を出す、其の金はどうして出すか、遣方に依つてはどうにでもなる。併ながら斯う云ふことを言ふと、それでは又資本のない所のもう一つの中小工業が困ると云ふ。中小工業が困るのはどうして救済すればよいかと云ふと、今日の中小工業は洵に困つて居るが、而も日本の生産の六割、若くは七割もの力を有つて居る。是が困ると云ふことは労働者が困ると云ふことである。我國の労働問題で一番深刻の部類は何處にあるかと言へば、此の中小工業に従事するものである。大工業に従事して居る労働者は、相手が大資本家でありますから、既に労働闘争に依つて相當の條件は贏て居る一番旨く行かないのは中小工業に従事する労働者で、それ等の人々は農民の收入にも殆んど等しき五十錢、六十錢の報酬で働いて居る。併ながら、其の人達が結束して此の改善を圖つてぶつかつて行けば、僅か千圓、二千圓の資金を調達するのにも血眼になつて居る所の小さい産業の親方と云ふものは壊れてしまふ。階級闘争の餘地はない、ない所に甚しき悩みがある。所詮問題は中小工業を如何に改善して、如何に統制に順應せしむるかにしかない。國が

一億圓位の金を中小工業者に貸してやつて利子を補給してやり、金を貸す事を條件として之に統制を加へ、次の過程に向つて押進むるやうにする途を開くより外にない。斯う云ふと、其の利子はどうして補給するかと云ふ。大資本家は産業を立直ほし、自己の損失を購ふ爲には政府と渡りを付けて工業銀行に頭を下げて行けばどん／＼金を出して貰へるぢやないか。斯様に行詰つて行けば、あとから出す。併し行詰らないやうに統制して立直ほさうと云ふと出さない。それでは叩き壊して載いて、後から載かうと云ふことになつて来るが、先んじて物をやれば歸はない、やらないからして世の中は危険になつて来る、斯様に私は見て居る。そこで部分的に立直ほしの政策を立て、も架空の議論と見える、此の部分的の議論を綜合して進む、是が根本信念でなければならぬ。此の根本信念が本當に國民の中に徹底してしまへば、其の根本信念より個々の政策を見出して實行するのは甚だ容易であると私は考へるのであります。即ち茲に新たなる政治的勢力が結成せられんとするならば、法三章で宜しい。第一、外の問題があるから世界に向ひ、外に對する經濟正義を徹底すべし、第二は大衆生活の絶對保障——絶對と言ひます、絶對に保障しなければならぬ、食へないやうな人間が居つて



はいけない、そんな人間が多くなる時には政治が自ら之を除去しなければならぬと思ふ。第三には生産力の増進、之には統制経済を私は主張する、此の法三章を以て本當に國民の思想が動員せられて、之を遮二無二やると云ふことにならなければ、現在の不況に對する對策は樹立せられない、失業は緩和せられず、諸君の就職難は永久に激しくなつて来る、私は斯う考へて居る。

#### ◇領土に對する經濟正義の徹底

そこで私は第一の領土に對する經濟正義の徹底を唱へるに當つて、現在我國は滿洲問題に打突かつて居る。今日之を對象として領土に對する經濟正義の徹底と云ふ根本信念に基いて日本國家は最も剛健に、最も勇敢に、最も率直に、最も公明に働かなければならぬと云ふことを説明したのであります。

諸君、滿洲國と云ふ國が出来た。此の國家に對して一体日本はどうするか。滿洲國は承認を求めて居る、國家として承認して載きたい、恐らく日本が第一に承認して、之に對して國

家としての援助を與へて呉れるだらうと云ふことを期待して居る。又滿洲に直接働いて居る關東軍は、滿洲に居住する三千萬居住民の民意と融合して此の國家の發達せんことを希望して居る、其の希望の下に動いて居る、是は眼前の事實である。それに對して日本の政府はどうして居るのか。曰く犬養さん、曰く芳澤さん、何と言つて居るか「滿洲國の健全なる發達を希望する」と。希望するなら承認するかと云ふに、其の承認は國家創立後日尙ほ淺きが故に中々輕々には決め難き狀勢にある云々と。犬養、芳澤外交は依然として若槻、幣原外交と何等變る所はない、根本に於て決意がない、ざり／＼のことを突きつめて考へて居るから、そんな馬鹿なことが言へるのだ。創立日尙ほ淺きが故に形勢を見て居ると云ふのは、日和見主義を執つて行かうと云ふことである。滿洲國家の成立に對して、日和見主義を執ると云ふことは、どう云ふことであるか。滿洲國家が本當に外國から非難も蒙らず、チャンと現在の儘立行く外交的乃至は本質的の力を具備してしまへば、之を承認して國家としよう、其の國家と日本と融合親和して、茲に日本の勢力を滿蒙に擴大し、滿蒙住民の生活の安定を日本の力に依存せしめやう、と云ふのである。中々立派なことを考へて居る。併しそれは旨く行つた



らさうしようと云ふのであつて、決意でなく希望であります。若し旨く行かぬならどうするか。

諸君、日本の滿蒙に對する政策が「若し旨く行かなかつたなら」と云ふやうなことを假に考へ得られるやうな中腰の態度では斷じていけない、私は斯様に信じて居る。若し滿洲新國家が本當に國家として獨立の体面を維持し得ざる時あるを想像するならば、それは何を意味するか。世界の輿論の變調の下に此の日本が頭を下げ、滿洲國家の要人がへこたれ、再び支那が茲に延びて來ることである。去年九月十八日以前の現狀に歸る、否それよりも甚しい。日本が手を出して失敗したのだから、もう手を出せない。支那は存分滿蒙に於ける所の支那漢民族の排日を擴大強化して世界列國に學んで滿蒙を自己の經濟單位の中に入れてしまつて支那單一の國家經濟組織を作ると云ふ野望である。

#### ◇支那官債の滿洲に對する政治觀念

元來、滿洲と云ふものは支那に取つてどう云ふ地域であつたか。彼の滿洲は支那に取つて

は本來在外の地域である、殊に東夷、西戎、南蠻、北狄の一種であります。支那は自國に隣接して居る國々をみんな自己の領土の附屬であると云ふやうな考へを有つて居る。東夷、西戎、南蠻、北狄を支那の觀念から言へば、一種の從屬する所の領土のやうな、領土でないやうな從屬關係の下に置いて居る。甚しきは日本を以て從屬關係の國と、昔から見て居つたのである。豊臣秀吉の征伐に遭ひながら尙ほ「汝を率じて日本國王となす」と云ふやうな無禮な手紙を送つた。さうして日本を從屬と見做して居つた。西藏、西比利亞、滿洲等多少の相異はあるが、概念の根柢は同じである。此の意味に於て斷じて滿洲を自國の領土とは考へて居なかつたのであります。清朝成立に及んで、露西亞と事を構へるに至つて、シベリヤは格別の變調もなく、格別の抵抗もなく——清朝の初めに於ては武力、富力共に甚だ充實して居つて其の勢力は非常に強かつたに拘らず、一遍では是は取られてしまつた。さうして滿洲に對して段々壓迫されて來たので、是も手離していゝ位の考へを有つて居つた。

併ながら此の清朝から言へば、滿洲は自己發生の地であるからして漢民族は成るべく入つて貰ひたくない、滿洲民族だけ其處に置いておきたい。處が朝廷は滿洲朝廷でありますけれ





ども、採用する官僚は悉く漢人が占めて居りますからして、漢人政治、言ひ換へれば漢人の植民地として満洲人を壓迫して、之を搾取するが宜い、即ち満洲は漢人官僚の政治の下に於ては、之を搾取するより外はない所である。搾取關係である植民地でなければならぬ、と云ふのが彼等の概念である。それ故に、北方の事急を告ぐるや、茲に漢人政治家等が漢人を入れたが爲に漢人はズン／＼増して來た。それが露西亞の東支鐵道經營に依つて資本が投ぜられ、勞働が要求せられるに及んで益々漢人の移住は増加して來た。更に日本が満洲に進出して數十億の資本を投ずるに及んで、支那の民族は續々満洲に入つて來て、漢人は茲に就職の途を得て來た。日露戦後僅かに五十萬に過ぎなかつた所の満洲の人口が三千萬になつたと云ふのは、是は夥しく支那本國よりの移住に依るものである。斯の如くにして露西亞の投資日本の投資、後に日本の技術又日本の國防力に依つて保障せられたる地域にズン／＼漢人が入つて來る。漢人を入れるのは宜いが、満洲朝廷以外の官僚は相變らず満洲を一種の植民地と考へて、明かに満洲に對する所の政治方針は搾取の外にない。即ち張作霖の如きは大いに搾取して三十萬の大兵を養ふの資源を得、満洲の國境の絶對安全を日本の國力に依つて保障

せられながら、支那全國に向つて野心を逞しうする。前黒龍江督軍の吳俊陞などと云ふ連中は、黒龍江省を預つて置きながら搾取ばかりをやる。第一金融權を有つて居つて、紙の札をドン／＼出す、紙の紙幣を出して置いて重要物産を買占める、工場を買占める、何でも金目になるものは買占める——其の眞似を高橋さんが始めやうとして居る——斯の如くにして大政治家が、質屋から女郎屋まで經營し、一億圓も金を持つて居た。張學良も何千萬圓かの金を持つて居つた。支那官僚の満洲居住民に對する所の根本政治觀念は搾取の外にない。本國よりすれば植民地であり、官僚よりすれば搾取である。其の概念の下に其の搾取を高度化して、植民政策を高度化する爲に日本の勢力が邪魔になる。初めは日本の投資に依つて繁榮し日本の技術に依つて繁榮して來たけれども、其の日本の資本なり、技術なりが役目を果したから、もう満洲に於て日本と云ふものは要らなくなつた、要らないものは捨てられなければならぬ、と云ふのが支那官僚の考へ方である。

故に若し其の形勢の下に再び歸すと云ふ考へならば「満洲國が若し獨立し得ないならば」と云ふ假想を下すことが出来るが、併し満洲國が獨立し得ないならば、支那本國の搾取、支那



本國の植民政策に利用せられ、而して支那本國をのみ主眼とする所の所謂支那帝國主義の滿蒙に對する擴大を是認すると云ふことにならなければならぬ。それを是認する位ならば、去年九月十八日以後帝國の軍事行動を起して來たことは、是は自ら否定しなければならぬ。之を否定する積りであるならば「滿洲國家創立日尙ほ遠く、徐ろに形勢を見て態度を決するも遲きに非ず」と云ふことが出来るが、さう云ふ積りでないならば、變な馬鹿げたことを言ふては不可ない。

#### ◇形勢動もすれば逆轉せんとする滿洲

一休日本の政治家達は甚しく自信を缺いて居る。大養さんであらうが、芳澤さんであらうが年を取り過ぎて居らうと、其の人の決断力がなからうと、日本政府を代表して發言する時には此の剛健なる七千萬國民が背後について居ることは知つて居る。吾々の代表として總理大臣なり、外務大臣は外に向つて物を言ふ權利がある。若し總理大臣、外務大臣が「滿洲國は斷じて獨立せしめるものである、滿洲國に對して第三國の容喙を許さず、滿洲國は日本が之を

盛立てるの決意がある」と云ふことをはつきり言へば、其の言葉に依つて滿洲國の動向と云ふものは自ら決せられる。滿洲國要人が、日本の責任ある政治家の聲明通りに動いてから、今日滿洲の情勢はどうであるか、餘り旨くは行つて居りませぬ。折角關東軍が僅か一萬ばかりの將兵を以て、あの數十萬の大軍の亂暴を制し、今日に至るまで臥薪嘗膽して來て居るのであります。然るに日本が全面的の決心を以て此の滿蒙問題を解決するの意氣込みが見えないから、形勢動もすれば逆轉せんとして居る。新聞を見て御覽なさい、黒龍江省の半分は匪賊になつてしまつて居る。吉林も反吉林の勢力が増大し、土匪横行して列車を破壊し、殊に中には種々の陰謀が混へられて、之を中心として日露間を離間し、此の紛争に乗じてアメリカを誘ひ來らんとするが如き、世界的の陰謀が茲に畫策されるに至つたのが今日の情勢である。斯の如き情勢を見るからして、新國家の要人、重要なる政治家達も躊躇逡巡せざるを得ない。其の大部分は何と考へるか。日本が滿洲を斯の如く盛立て、居るのも、是は長いことはあるまい、今に世界の壓迫が激しくなつて來る、日本の財政が窮乏を告げて來ると其の中に撤兵するであらう、シベリヤ出兵の二の舞を演ずるであらう、それならば日本を當にして



新國家の建設に力を入れて居ると後で暗い目に遭ひはしないか……と、眼前の利益を得ながら、蔣介石の方にも宜しく、張學良の方にも宜しくやつて置かうとする。即ち、今日日本の壓迫に依つてやつて居るが、後日諸君が捲土重來して滿洲に臨む時には、其の先驅となつて日本を撃攘するものなり、と云ふ位のことを言ふ。それが今日の情勢である。九月十八日來の軍事行動が行はれて、事今日に至つて居るのに、抑々總理大臣が「滿洲國創立日尙ほ淺く」と、冗談ぢやない。彼の地の見極めが付かないのは、此の地に於ける政治家の無決斷が反映して、彼の地の動搖を來して居るのである。彼の地の動搖を鎮せんとするならば、此の地の政治家が茲に斷乎たる決意を示して、口の上ではつきり世界に示すこと、是だけで私は十分であると思ふ。それでは何とすれば宜いのか。即時滿洲國を承認するが宜い。宜しい、私は承認論である。併し陸軍の人達は大方、承認なら急がなくても宜いと考へて居るだらう。何故さう考へるかと云へば、承認すると國家になる、承認すると新國家と外務省との關係が公式に打立てられる。外務大臣に任せきりになつて居ると、吾々はものが言へなくなる、さうなると今の傳統的霞ヶ關の遺方であるから、何をやるか知れない、列國に暗められて、直ぐ引込むかも

知れない、再び幣原外交當時に後歸るであらう、承認後確かに日本の政府が此の滿洲國を指導し得ると云ふ迄に見極めが付き、日本にもう少し強硬なる外交が出来る迄、外交權を渡すよりは有耶無耶のものが宜からう、と思つて居る。それをよいこととして、陸軍もたつて承認を求めないから、承認を延ばして置かうと云ふのである。實に現内閣の馬鹿げた遺方には吾々は呆れてものが言へない。

#### ◇滿洲國承認の前提に滿蒙モンロー主義の高調

仍で承認するとすれば、承認した後の關係を決定する準備が要る。其の準備が出来ないならば、承認の前提として取敢へず滿蒙に對して日本のモンロー主義を高調するが宜からうと思ふ。私は報知新聞に頼まれて今日の朝刊から「滿蒙モンロー主義提唱」と云ふものを簡單に書き出して居りますが、引續いて出るので重複するかも知れませぬが、茲で申し上げます。

滿蒙モンロー主義……と云つたら、今頃大方外務省の役人達は報知新聞の切抜きを切張りしながら「それは外交上の危險思想である。中野は困つた奴である。彼は恐らく國際聯盟の



精神を知らぬであらう、不戰條約の條章を讀んで居らぬであらう、九ヶ國條約に對しては之を考へない。彼は煽動政治家に過ぎないであらう」と斯んなことを言つて居るに違ひない。私共はそんなことは知り抜いて居る。國際的の法典は世界列國の申合せである。其の申合せは先づ世界列國の背後にある國民の實力と、要求と、熱度とで結唱したもので、其の熱度の高低作用に對する増減に依つて、此の國際法典はどんなにでも解釋し直はされる、已むを得ざれば放棄するも差支へないものであるやうに私は信じて居る。抑々國際聯盟の一番の缺點は何處にあるか。世界の平和を保障すると云ふ立派な理想を有しながら、一番の缺點は平和の基礎たる國際的正義を徹底せしむると云ふことに缺くる所がある。正義の根底は何にあるかと云へば、アリストートルの説ではないが、分配の公平である。公平は正義である。其の公平を無視せる所の平和論、是は砂上の樓閣に過ぎないと私は思つて居る。巴里講和會議に參列したる列國背後の實力に依り、言ひ換へれば戰勝諸國の實力、情實に依り、最も立派な言葉を付けながら、最も大膽に自己の慾望を満足せしめんとしたるものが國際聯盟であります。國際聯盟は諸外國に具合が宜しい、イギリス、アメリカ、フランス何れも世界に大領土を持

つて居るが故に、此の領土を此の儘持つて行けばいゝから現状維持、世界列國の領土權を尊重……小さい國は強國にくつついて贊成した。そこで一番困つた國は日本の如く小さくしてアンビシャスな國である、現状を維持されては困ると云ふ國である。日本の如く、伊太利の如きは國力に相當するだけの世界の自然生産力活用權を持つて居ない。是は何としても不公平である。茲に其の根本の備みがなければならぬ。私は公平に考へるが、此の最近の世界領土の色彩と云ふものは、之は最近一二百年の間に決まつたものである。此の儘か一、二百年の過程の上に固定して居る状態を萬代不易の状態の如く考へて、領土權の尊重を説き、帝國主義の否認を説き、侵略絶對反對を説くと云ふが如きは、己の物は己の物として、後日機會があれば人の物をも己の物とする野心の發露に外ならぬと考へて居る。地球表面の領土に吾々の生活に必要な自然生産力がある。此の肥沃な領土を取離しては吾々の生存に必要な自然生産力を得ることは出来ない。即ち生きるが爲に、此の世界の地面は世の人類に依つて皆く活用されなければならぬ。此の集團の上に一時的取決めが變化した時、必ず此の生産力を融通するだけの餘裕すらも大凡なければならぬ。ち制度を變更する能はされば官即を撤廢制す、



る、國籍を棄て、しまふと云ふことがないならば、即ち移民の自由を默認する。是だけの基礎がなければ、此の領土を僅か一、二百年間の固定状態の儘に、萬代に釘付けにしようとするのは甚だ間違つて居ると私は思ふ。而も念の入つたことには、國際聯盟は最初米國が提唱して置きながら、イギリスの有様が好かつたから、アメリカは馬鹿らしくて加はらなかつた。それにも拘らず、世界各國はアメリカの御機嫌を損じてはならぬと云ふので、アメリカにエロサーピスをやつて居る。規約第二十一條には差氣もなく、アメリカのモンロー主義を認め、其の理由を百年間の慣例に依つて打立てられたるアメリカの自然の實在であるから、と説明してゐる。然らば日本が三百年間の慣例に依つて生ずる所の國際正義に至つては、何故認めないのかと言はなければならなくなる。茲に國際聯盟は不合理極まるモンロー主義の承認をして居る。それが即ち國際聯盟の不徹底なる一例である。斯んなものを金科玉條として、向ふが國際聯盟の精神に……と言つて、押掛つて来るならば、其の精神に對する眞の検討をするのが日本の責任であるに拘らず、アメリカの御機嫌を取つて、支那問題を自分から捲き出し、列國の干渉に對して招待狀(インビテーション)を出すやうな馬鹿な態度を執るのは何の爲であるか。大學を卒業し、どうして外交官の試験をパスしたかに呆れざるを得ない。

### ◇三文の價値なき雄辯と九ヶ國條約の本質

今や民衆政治家を以て誇りとする、三百餘名の大政黨を掲げて立つて居る今日の大養總理大臣が、之等關係の言葉に對して、斷乎たる日本の要求を世界の前に率直に表明することが出来ないとするならば、彼の民衆を煽動せし雄辯は遂に國家を擔當した時に三文の價値なきものとならざるを得ないと私は思ふ。國際聯盟は斯う云ふものである。又九ヶ國條約を外國から持出されるとビク／＼して居る。是は本當の話であります。關東軍を本當に切り廻して居る者は、一中佐石原氏である。司令官も殆んど眼中にない、本國政府も眼中にない、殆んど獻身的にやつて来た。私は實に偉い人だと思つて居る。此の石原中佐が此の間やつて来て芳澤さんに會つて色々議論をしたさうである。芳澤君は「滿洲國は絶対に承認せぬ」と云ふ——是は二月のことである——然らば「總理大臣の御意見はどうか」と問へば、「大養總理大臣も斷じて滿洲國承認は反對である」と云ふ。石原氏は之を聞いて匙を投げてしまつた。そこでお前



達は勝手にやれ、俺達は俺達でやると云ふので「政府の方針を徹底しようとなさるならば、先づ軍司令官を誠切つて、關東軍幹部を交代へて了みなさい、それなら旨く行きます」と言つて歸つてしまつた。之は誰が聽いても捨臺白スツキヤクでせう。處が外務大臣はさうとも思はれないらしい、之を本當に受取つて、陸軍省の小磯次官に向つて「小磯君、此の間石原さんと議論を闘はしにが、甚だ能く俺の意見を了解して呉れた。何れ政府の意見を貫徹せんとするならば、あの關東軍の司令官を交代へる方法はないか」と云つた。捨臺白スツキヤクや、嚇し文句を、さうとも考へないで當り前に受取つて頭に鍋をかむつて居るのが日本の外交である、是位馬鹿げて居ると相手になつた方が驚くの外はない。さう云ふ外交官の言ふことを其の儘聽き入れて日本帝國の總理大臣が、三百有餘の大政黨を提げて——是は日本の一種のブルジョア、ファッショである、此のブルジョア、ファッショの大將が、議論に引摺られて——何とすることも出来ないのは驚き入つた話である。然らば芳澤君及び犬養氏が何故滿洲國の承認に反対であるか。それは九ヶ國條約に抵觸するからである。抑々九ヶ國條約と云ふものは其の根底が宜くない。九ヶ國條約の締結は何時でありましたか？諸君御記憶の通りに、ワシントン會議の

時に出來ました。ワシントン會議はどう云ふ會議でありますか？巴里講和會議に於て山東運付の言質を取られ、東洋に於ける日本の戦争中の策動は不都合極まる野心の發露なりと云ふ裁判の判決を受けて、孤影悄然として東洋に歸つて來た此の日本を、其の儘では許さぬと言つて、引出されたのがワシントン會議であります。其のワシントン會議に於て米國はどう言つたか。英國に對しては、あゝ云ふ不都合な奴と日英同盟などを繼續して居るのは宜くないと日英同盟を廢棄せしめた。日英同盟の廢棄は同時に英米の握手を意味するものであります。英米握手して日英同盟を捨てさせ、隨つて日本に於ける東洋の地位を孤立せしめ、英米其の他列國を率ゐて、大戦中に勃興せんとしたる日本の勢ひをペシヤンコにしてやらう、と云ふのが、抑々ワシントン會議の本質であります。ワシントン會議は軍備縮小會議で、海軍力の英國十、アメリカ十に對する日本六の比率を押付けられた。それは屈從以外の何物でもないそればかりでない、ワシントン會議が開かれる時に「ワシントン會議は軍縮會議である。海軍の會議は即ち太平洋上の問題であつて、太平洋上の問題なるが故に太平洋上に相接する所の滿洲や支那を主題としてどう云ふ問題を議するか」と云ふのがアメリカの出方であつたので



あります。私は其の時單獨一介の議員に過ぎなかつたのでありますが「それはいかぬ。海軍問題が太平洋に存し、其の太平洋の問題なるが故に、支那問題、滿洲問題を議すると云ふならば、太平洋の此方の岸と向ふの岸に於て差別があるべきでないから太平洋の彼岸即ちメキシコ問題、中央アメリカ問題、パナマ問題、南米問題及びアルゼンチン諸國に對しても同時に検討を加へて、滿洲問題を公平に裁斷する。各國が支那問題に對して公平なる原則を打立てるが如く、アメリカの中米、南米政策に對して嚴肅なる検討を下すだけの決意がなければ、此の會議は片手落ちである」と私は唱へたのである。其の時の議會の開會史に私はチヤンと内田外務大臣及び其の他諸公に互り合つて居る。私がさう云ふ議論をすると當時の議會では、途方もないことを言ふ奴である、と云ふので殆んど彼等は笑殺した。當時の言は今日に於て思出して見ると皆眞をなして居つたのであります。

#### ◇九ヶ國條約を眞に尊重するならば

斯くして日本はワシントン會議に臨んで行つた。さうして「海軍問題を議するからして滿

洲問題にしる、支那問題にしる議しよう」と云はれて「宜しい、結構でございます」と。豫ねく支那問題に對して門戶開放、機會均等は結構である、ワシントン會議で殊更に言ふ必要はない。その門戶開放、機會均等を必要とするならば、アメリカのモンロー主義に對して門戶開放、機會均等を注入するのが當然であると私は思ふ。このモンロー主義はとつて置きにして、東洋問題に對して門戶開放、機會均等を要求するとは何たる仕業であるか、我が物は俺の物、他人の物は俺の物といふ態度である。而して對支問題に對して門戶開放、機會均等の原則を打建て、しまつた。滿洲問題に對して折角日本の有つて居つた優越權は後日における「石井、ランシング協約」の廢棄と共に失くなつてしまひ、滿洲の鐵道に對する所の優先投資權もこれで棄てさせられてしまつた。而して支那の領土權、行政權を尊重して、之に向つて手を加へないといふ議論を白熱させておいて「議論は公平である、領土權尊重、機會均等何れも尤も至極である、世界九ヶ國で調印しやうぢやないか」といふので、イギリス、アメリカ、日本、支那、イタリー、フランス、ベルギー、オランダ、ポルトガル、この九ヶ國を引張つて來て九ヶ國條約を結んだ。一体、支那の問題に對してポルトガル、オランダ、ベルギー等の國と



日本と對等になつて九ヶ國條約を結ぶ必要が何處にあるか。英米既に握手して日英同盟を破棄せしめたその勢ひを以てフランスも仲間に引き入れた。アメリカ、イギリスの合意によつてフランスもこれに握手するの已むなきに至つた時に、この三國の云ふ通りにならない國がヨーロッパの何處にあるか。ベルギーは大戦を経來つて英米によつて獨立の体面を僅かに維持して居る。ポルトガル、オランダ等は英米が共同して物を言ふ時、仰在る通りにならない奴はない、英米の借家に居る店子みたいなものである。さういふ者を連れて來て九ヶ國條約なんぞ何の必要があるか。門戶開放、機會均等、領土權の尊重——領土權の尊重といふのは滿洲に手をつけてはならないといふことである。併し、滿洲は日本の奥座敷である。日清、日露の兩戰役により歴史の過程を経來つて特殊地域となり、嘗てはこの特殊權利に對して「石井、ランシング協約」までも結んで居るに拘らず、この奥座敷の問題を、領土權を尊重して手を付けるな、といふ原則で律しやうとするその協定に、縁もゆかりもない九ヶ國を連れて來て多數決の形を以て日本に當らうといふのは洵に馬鹿げた話である。滿洲問題に關聯して九ヶ國條約を結ばせられたといふのは日本の馬鹿を立證する以外何物もない。斯う云ふ馬鹿げ

た九ヶ國條約を金科玉條として、九ヶ國條約に背いては不可ないから……冗談ぢやない、馬鹿な事を云ふもんぢやない。九ヶ國條約を眞に尊重するならば同じ原則を世界の領土の何れの地域に向つても強要しなければならぬと私は思ふ。それをやらぬ位な、そんな九ヶ國條約なら紙の上に書いただけのものであつて、之が適用に至つては考へ直ほして行かなければならぬと私は思つて居る。

### ◇死せる法典を以て人間社會の發育を阻害

もう一つは不戰條約である。國際聯盟がモンロー主義を認めたらからは、九ヶ國條約にも當然認めて貰はなければならぬ日本のモンロー主義を認めないのみか、茲にモンロー主義的野心を出すべからずといふが如き取決めをやらせてしまつたのは大失敗である。國際聯盟と九ヶ國條約を比較するに、彼米國は積極的にモンロー主義を認めしめ、我は積極的にモンロー主義を否定された。その失敗に氣が附いて居るなれば、次に結んだ不戰條約に於ては日本のモンロー主義を認めさせるのが當り前である。世界列國は政治的目的を達成せんが爲に戰爭



するものではないといふのが不戦條約の趣旨である、然るに英國は、この不戦條約は英國の特殊關係を有する地域に對しては適用せらるべきものではない、イギリスの特殊利益を有する特殊地域に向つて問題が起つた時イギリスは兵を動かす、之に對してこの不戦條約は適用せらるべきものではない、イギリスは是等の地域に向つて自衛權の發動を要求する、と云つて附則に於てこの英國モンロー主義を認めさせて居るのである。日本は一人だけでは氣がつかないかも知れないが、何でも英米の眞似をするのだから、日本も序でに書いて貰ひたかつた、らうと思ふ。而もウンともスンとも云はず、何等要求せず、又記録させなかつたのが即ち不戦條約である。斯う云ふ片手落ちの條約が三つ並んで居る。その片手落ちの條約を其の儘持つて來て、これに抵觸するからどうも滿蒙には手が出せないといふ。それだから滿洲國の獨立に對して承認を與へる事が出來ないのだ。私はそんな馬鹿な事を云ふ必要はないと思ふ。この條約そのものが矛盾を内包して居る。その矛盾せる部分は、滿洲國自然の發達に常嵌めると到底これを適用することが出來ないやうになつて居る。この矛盾は自ら崩壊し、棄てられてしまはなければならぬ。即ち支那の滿洲に對する政策には、支那人によつて移植さ

れたる數千萬の漢民族そのものが満足しない、それ等が滿洲人、蒙古人、朝鮮人と一緒になつて、支那本土の羈絆を脱して獨立國家を形成し、日本の國防力によつて守つて貰ひ、日本の投資と技術によつて富まして貰ひたいといふのである。滿洲國創立の宣言中に「搾取なき國家を作る」と云つたのはよく／＼今まで支那軍閥の搾取が辛かつたのだらう。斯の如くして出來た民族自決とは云へないでせうが民意自決——民意自決は民族自決と同種のものであつて、これは個々の條約を超越して世界の國際法上の根本原則としなければならぬ位に私は信するのであります。その民意自決に決して日本の助けを求めて居る。日本は隠忍して昨年九月十八日までは我慢したが、その生命線を直接行動によつて脅かされるに及んで奮然と立つたのである。是に對して滿洲三千萬の民衆は日本を頼つて居る、これが眼前の事實である。これを領土權の侵害と云へるか。支那人が自ら分裂して居る、分裂せざれば飽くなき搾取の下に生きて居られない。人間は生きなければならぬ、満足に生きなければならぬ。この生きんが爲の要求に押ひ立つて居る民衆に對して、嘗て條約に書いた「領土權の尊重」といふものゝ爲に容易に承認が出來ないといふ事は、死せる法典を以て生ける人間社會の發育を阻害せ



んとする最も馬鹿げたる行動であると私は信じて居る。それが國際法であらうと國內法であらうと、實情に副はざる法典は永久に拘束力を有するものではない。嘗て作つた洋服でも身体が大きくなつてしまつたら着るべきものでない、そんな洋服は棄て、新しい物を着なければならぬ。そんな腐つた法典は打壊して新たなる、人類生活の本當の要求に基づく所の法典を打建てるだけの決心を、國內法に對しても國際法に對しても、剛健なる國民は之を有つて居らなければならぬと私は信じて居る。併し、それ故に過去の國際聯盟、不戰條約、九ヶ國條約は皆棄て、了へとか、壊して了へとか、私はそんなことは云はぬ。在るものは在らしめておいて、腐つたものはそのままにして置けば自然になくなる、マルキシズムの言葉をも以てすれば、使用せざればいゝ、使用せざれば獨りでに失くなつて行く。この失くなる所に新たなるものが生れて来る。即ち私は第一次滿蒙モンロー主義を此の際に當つて聲明することが必要であると思ふ。滿蒙モンロー主義を聲明するといふことは所謂國際聯盟、不戰條約、九ヶ國條約に抵觸することではない、これと衝突する所以ぢやない、寧ろこれらの諸條約の根本精神に合致する所以である。アメリカのモンロー主義が認められ、イギリスのモンロー主

義が認められるならば、日本のモンロー主義を滿蒙に向つて適用することは、過去の三條約の缺陷を補充し、修正して眞の平和の爲の法典たる意義あらしめる所以であると私は信じて居るのであります。

### ◇滿蒙モンロー主義は既に爛熟せる事實

私は實際政治家であるが故に亂暴な事を云ふのは嫌ひである。日本の實力を知るが故に實力以上の亂暴をしやうといふことには與しない。併乍ら幾ら控へ目に考へても日露戰役以來の歴史、九月十八日以来の滿洲の實情、これに即して日本が滿蒙にモンロー主義を確保するものであると聲明する事位穩健で當然な措置はないと云ふてよろしい。それすら云へないといふ位なら國を建てるの資格はないと思ふ。即ち我々は世界の強大帝國主義の對立抗爭の重壓に押潰されんとして何處にか生きなければならぬ、その生きなければならぬ天地が滿蒙に展開せられて居る、而もこれは不自然に滿蒙に向つて進まんとするに非ずして、歴史の過程を經來つて何等の矛盾なく、何等の抵觸なく此處に居住する三千萬民衆の希望と融合一致し



て進み得るやうになつて居る。滿蒙モンロー主義は既に爛熟せる事實である。これを聲明して世界に認めしむることは爛熟せる事實を登記するやうなものである。既に結婚して子供が出来て居るのに、これは私の妻であると云つて何故悪いか。滿蒙は子供が出来て今や孫が生れんとして居る、これが妾君たるの資格ありとかないとか云ふことを第三者から裁判せられる程我々は卑屈であつてはならない。事は頗る簡單である。滿蒙モンロー主義、これを聲明すればよい。是が領土に對する經濟正義の徹底である。世界の情勢が逆に廻つて、もう一遍フリー、トレードになり、もう一遍移民の自由となり、もう一遍原料資源の世界的公開となるならば、何を苦しんでか世界の經濟ブロック政策に與して日本も經濟單位を擴大するやうな事を考へませうか。世界が今日の如き對立をなし、世界對立の重壓が斯の如きに至つた時、最も合理的進み方をなすのに何の驚異、不思議はないと思ふ。是によつて滿蒙モンロー主義を聲明し、斷じて滿洲國に對して第三國の容喙を許さない。アメリカがパナマに對するが如く、南米に對するが如く、日本も滿洲國に對して發言上の優越權を有ち、これに向つて挑戦し來る國があれば何者に對してもお目にかゝる。この決心だけは決めなければなかく、滿洲

國は育ちません。力と頼んで居る日本がまだ中腰で居る、旨く行つたら承認してやらう、旨く行かなかつたなら……といふことを假想せしむるが如き馬鹿げた態度では滿洲は斷じて育たない。育たなければ日本は滿洲國に對する、あの地方に對する所の生命線を拋棄しなければならなくなる。滿蒙を拋棄することは朝鮮を拋棄することである。然らばこの優秀なる七千萬の民族はこの島帝國の中に窒息せしめられ、萎縮せしめらるゝ事とならなければならぬ。それは條理に背く、條理に背くが故に斷乎として聲明すべし。これに反する者あらばお目にかゝると云ふて見給へ、反對する者はない。此方がお目にかゝるといふ時にお目にかゝらうといふやうな馬鹿は世界中にない、これだけは私は固く信じます。日本が若しパナマに兵を出して居るならばアメリカが承知しないでせう。日本が若しシンガポールを侵して居つたならばイギリスは起つてせう。併し事は滿洲ですと、誤解してはいけない、パナマぢやない、シンガポールでもない、滿洲です、大連ですと、と云へば彼等は間違つてゐたと直ぐ引込むでせう。又アメリカは少なくとも千九百三十六年までは今の海軍力を以ては單獨で日本を屈服する事は出來ない。我海軍の心血と技能とを注ぎ盡して備へたる今日の海上國防力は、アメリ



カに對して一戰する時我れ優秀であります。我優れりといふことは算術上の答案である。算術はアメリカも日本も同様であります。アメリカの將軍達の頭がよいならば、日本優れりと云ふとき、同じくアメリカ劣れりといふ算用をする。劣れる時に喧嘩するのは有利でない、千九百三十六年までは容易に來ないのであります。

### ◇英米握手して武力干渉をなし得るか

米國一人で來なければ二人で來ないか。アメリカ十、イギリス十、日本六の比率で十對六ならいゝが、十と十と相結んで二十對六で壓迫して來たら日本は叶はぬぢやないか。成る程叶はぬかも知れぬ。併しイギリスは決して東洋に來ない。何故來ないか。英帝國經濟帝國主義の眞正面に立つ者に、茲にフランスの歐洲大陸經濟ブロックがある。イギリスとフランスの立場は、世界の低氣壓の中心たるドイツに對する政策に於て今や齟齬し動もすれば衝突し勝ちである。イギリスはアメリカを引立て、ドイツといふ牝牛に水を與へて賠償金を取上げる爲に之を育まんとした。賠償金を取る事は後の考へであつたが取敢へず資本を投じてドイツ

を建直し始めた。處が今は賠償金を取る所か投じた資本が死んで了つては困る、賠償金は緩和しても投じた資本を生かさなければならぬといふのが英米の立場である。そればかりかイギリスは歐洲大陸に單獨なる有力國家が生ずることは歴史的に嫌ひである。嘗てナポレオンの盛んなるやフランスを叩きつけた、カイゼルが頭を上げるやドイツを叩きつけた。今や今日のフランスはナポレオン一世時代のフランスよりは尙ほ有力である、しかも一つのイデオロギ―を以て歐洲大陸を單一經濟組織の下に纏めんとして居る。トルコと結んで英國の近東政策を一本突込むといふに至つて、なか／＼英國はフランスを見逃して行動する譯にゆかぬ、フランスの脅威は或る場合においてイギリスに加へられて居る。英首相ラムゼー・マクドナルドがアメリカのフーズー大統領と相談を決めて、ドイツの賠償金を一ケ年猶豫しやうといふことの轉旋を始めた。これは又ドイツ首相ブリュウニングの切實なる希望であつた。この希望を容れてやらうといふ相談をしはじめた。さうするとフランスに渡りをつけなければならぬが、フランスは曰く、英米は何時でも他人の權で相撲をとる、他人の懐中物で慈善をやるのがお前達の得意だ、ドイツの賠償金を緩和してやればお前達はいゝ顔になる、



賠償金を緩和すればお前達の資本が生きて来るだらう、併しフランスはその賠償金を取らなければ、戦争中最大の犠牲を拂ひ戦後八十年間は国力恢復不可能なりと云はれたるこの國情の下に立つて行くことは出来ない、その賠償金の大部分を取る者はフランスである、賠償金を緩和してやらうといふことはフランスの取り前を棄てさせてやらうといふことである、お前達がドイツにいふ面をしてさういふことをいふならば、俺は戦争中にイギリスから借りアメリカから借りて来た金は一文も拂はぬ、お前達は人道の敵ドイツを膺懲すると稱して、金を呉れたのかと思つたら貸して呉れて居つたのだ、返さなければならぬ、而もフランスの犠牲においてドイツの賠償金を緩和してやらうといふが如き亂暴なる主張を爲すに於ては、戦債を全部牽引にせよと。これが喧ましくなつて来て話が折合はぬ、折合はぬ間にドイツは賠償金の緩和が出来ないならば、もう革命に想へるより外ないやうになつた。共産黨の革命は今に勃發しさうな形勢となり、一方ヒットラーの率ゆる國粹社會黨は共産黨なんか叩き潰せ、ドイツの武力、ドイツ國民の決議によつて賠償金を踏潰せと叫んだ。共産黨が成立すればロシヤと同様總ての債權は牽引にされる、ヒットラーの國粹社會黨が成功すれば、もう一度戦に

かけても賠償金を拂はない。どつちになつても大變なことになる。此の時に於てフランスは決意して、斯くなつたのはイギリスの責任である、イギリスさあ考へろ、若しドイツが亂暴をするならば、直ちに大軍を繰出してベルリンを踏潰すのは譯はない、假令革命が左でも右でも構はぬ、又ロンドンも上空から爆弾で叩き潰すぞ、と出た。この脱み合ひが繼續するとドイツの政情益々不安となる、共産黨になるか、ヒットラーになるか。フランスのドイツ征伐になると、ドイツに投ぜられた資本が不安になつて来るのはアメリカでありイギリスである。イギリスのドイツに投ぜられたる資本は歐洲諸國から短期の預金を集めてドイツに長期の投資をしたものである。ドイツの政情安定せず、國情不安なりといふならば、この長期の投資が生きたのか死ぬか判らぬので英國の銀行に金を預けて居る短期の預金者が英國の銀行からどん／＼金を引出して来る。そこでフランスはイギリスが非禮なことをやるならば預金を引出してやれと云はぬばかりに毎日ロンドンの上空から飛行機で大陸に金を輸送して来る。其の爲に英國はやり切れないで、世界金融市場の中心たる誇りを棄て、昨年の九月二十二日に金輸再禁止に等しい金本位の停止をした事は諸君の御承知の通りである。フランスとイギ



リスとはこれ位深刻にいがみ合つて居る、英國として手がつけられない。このフランスに相對して居る時、アメリカの誘ひに應じて滿洲問題に對して——そこには歴史的に日本が根を張つて居る所に——十對十を合せて二十對六で押して行かうといふやうな、そんな馬鹿げた事にイギリスは出て来ない。歐洲を空にして出て来ればフランスの脅威を感じる。あんまり馬鹿でない打算に長ずる英國はそんな事はチャンと知つて居るから、そんなことで出て来ません。支那問題で日本に向つて一番に躊躇するのは英國である。これは英國の正義人道が然らしめるのではなく、背後における自己の立場が彼をして反省せしめるのであります。

### ◇英米露の提携は杞憂なり

もう一つロシアがある。英米握手しておいて、それ等の海軍力とロシアの陸軍が一緒になつて、三國一緒にかゝつて来たらどうなるか。そんな馬鹿なことを心配して居つたら仕方がない、之を稱して杞憂と云ふ。昔杞人あり天の墜らんことを憂ふ、天が墜ちはしないかとそんな馬鹿なことを心配して居る。爾來數千年天未だ墜ちず、ロシアはなか／＼英米の誘ひに

應じて東洋には来ない、東洋に来るよりインドの國境に對して、英國にちよつかいをかけたい位の氣持が動いて居る。ロシアは西に向へばフランスが居る、即ちポーランド問題でフランスに打突かなければならぬ。東には日本が居る。この日本とフランスは押しも押されもせぬ世界の二大陸軍國である。五ヶ年計畫が何れまで出来たか、物の云ひ方が奇抜に聞えるから如何にも大袈裟に見えるが、政友會内閣でも民政黨内閣でも、繼續豫算を五年七年と置いて五ヶ年計畫だの七ヶ年計畫等色々やつて居る、ロシアがそれをやつたとて別に奇なことではない、大掛りでやるから多少はやつたでせう、而もそれすら未だ完成せざる中に世界の二大陸軍國たる日本に向つて打突かつて来る筈はない。又今日に於てロシア人から云つても、舊ロシア帝國主義を再現し來つて、滿洲に打突かつて来るだけの武力なきのみならず經濟的準備もないと思ふ。シベリヤ沿海州の資源だつて廣すぎて活用出来ない前に滿洲に出て來るといふことはイリュージョンである。そんなイリュージョンはなか／＼實現しないと思ふ。現に昨年十月フランスに對して領土不可侵の條約を締結した。芳澤外務大臣がロシアのモスコイに行くときチノヴィエフから、日露間にもフランスと結んだが如き領土不可侵の條約締結を誘



はれた。處がイギリス紳士や貴婦人に握手されると云ふといふ氣になつて儀禮を盡すが、熊  
みたいな毛むちやらな手を出されると氣持が悪い、氣持が悪いからいゝ加減の事を云つて逃  
げて来た。併しそこに多少の言葉は残して居つたと見えて、ロシヤの大使が犬養總理大臣に  
向つて繰返して同じことを申込んだが、そんなことはしなくともいゝよと跳ねつけた。私は  
之によつて察するもロシヤが如何に東洋に對して事を醸すの愚なるかを知つて居ることが立  
證されると思ふ。ロシヤはフランスと西方に領土不可侵條約を結び、日本と東洋に領土不可侵  
條約を結び、東西共に伸展の餘地なしとすれば何處に向つて脅威を感ぜしめるかと云へば、  
それは必然的にインドの國境である。是は無抵抗の地域である、無人の野を行くが如く下れ  
る所であります。そのインドには國民革命熱が段々白熱して來てゐる。このインドの革命論  
は曾ては知識階級の感情論であつた、然るにイギリスが植民地との間に特惠條約を結び、日  
本の製品は安くともインドに入れぬ、イギリスの製品は高くもインド人に買はせるといふが  
如き政策を執り來つた以上、このインドがイギリスに隷屬して居ることは、プロレタリア  
の生活問題に關するに至つた。それ故に今日のインドの革命熱は知識階級の革命論、感情論

から更に眞剣になつて來て一般貧民階級の生活論と一體になつて來て居る。先日ガンヂーは  
ロンドンに引出されて色々誘惑を受けたが、彼は傲然として裸體で以て官殿に現はれ皇帝に  
對坐する、洋服は着ない、イブニングもつけない裸體で毛脛をひき出して應對した。歸つて  
來て牢屋に投ぜられて居りますが、このガンヂーを虐待したとあつてはインドの民心不穩に  
なるといふので、英國は一名のガンヂーを便遇し、彼に對して敬意を表して居ることを民衆  
に知らしめて居る。併しロシヤの世界革命熱とインドの國民革命熱とが茲に遭遇した時英國  
の寶庫には火が附く。この危険の前に暴露されて居る英國がどうして東洋に出て來るか、英  
國とロシヤとどうして握手しますか。アメリカ人では滿洲問題に關する限り武力干涉はし  
ない、英國が來て二人ならやつて來るかも知れぬが英國は來ない。ロシヤも前述の通りであ  
ります。

### ◇ 難局に處する外交方針の秘訣

此の時に當つて、最初ならばいさ知らず既に燃焼せる事實の発露を日本がベン先でやるだ



けに進んで居るその滿蒙モンロー主義の聲明といふことに對してどこに指一本でも指す者があるか、あつたらお目にかゝる。難局に際會せる時の外交は一定不變の信念によつて行はなければならぬ。己の爲す所と爲さざる所をはつきり聞かせる「これだけはやるがこれ以上は爲さない」と、是を決定することが難局に處する外交方針の秘訣であると私は思ふ。或る時は非常に愁を有つて居るが、或る時は仰しやる通りにどんなにでも屈從するかの如く、或は強くなり或は弱くなりへななくして居ることは國家弱の表現以外の何物でもないといふは云ひたい。併し外から見ると、そんな風に變る外交といふものは變幻出沒、陰險出沒する所の野心を有すると思はれる。歐洲大戰の外交を一瞥しても此の鐵則に當接する。日本が滿蒙に對してモンロー主義を徹底せしめると云ふことは一番控へ目なことである。それだけであつて野心を藏してゐないと云ふことを知るならば、世界各國にしても安心するだらう。滿洲の人心の轉向も定まるだらう、支那も諦めるでせう。この決心なくして日本は東洋覇權を確立する能はず、この滿洲政策を確立せずして日本の經濟政策を擴大する能はず、生存權を確保する能はずと私は新様に信ずるものであります。大妻さん、芳澤さんもロシアから手を出されて怖

がらぬでも宜しい「北は黒龍江、西は興安嶺を以て國防線となす。汝等の領土を侵略するの意思はなし、新興滿洲國も亦其の意思を有せず、滿洲國及び日本國と領土不可侵條約を結びなさい。併し東支鐵道は何とか解決してくれ、我方は我方に於て有する所の鐵道敷設權によつて東支鐵道並行線を敷くと云ふやうな亂暴はしないから、それを譲り渡して頂きたい、先づ外交交渉に至るだけの豫備行爲を始めませう。又カムチャツカの漁業問題は條約に於て決めながら毎年々々漁區の入札に於て問題を譲すやうでは面白くない、この漁業問題も徹底的に解決しろ。此の漁業問題と東支鐵道問題を徹底的に解決するに於ては我に領土上の野心なし、汝も亦東方に向つて野心を抱くべからず、而して領土不可侵條約を結んだら汝等の誠意を事實上に示して貰ひたい」と、之だけ踏込んで出て行くならばロシアも恐らく應ずるであらう、また應ずるまでに引出して話を交換しておくといふことが、アメリカを牽制し東洋における日本のフリー、トレードを維持する所以であらうと私は信じて居る。然るに政府は何にもやらない、何にもやらないばかりならまだしも、時にはどんな事を仕出かすか判らない。御覽なさい、滿洲事變勃發當初はどうです。滿洲に九月十八日の事あつてその翌日から



日本政府は「我軍隊は速かに附屬地に撤退するものである」といふことを何遍も言つて居る。もう撤退する、もう撤退する……と、冗談ぢやない撤退も何にもしないでチ、ハル迄行つてしまつた。錦州は攻撃しないと云ひながら攻撃し、吉林には入らぬと云ひながら入つたから嘘ばかり言ふやうに見える。嘘ではない、日本軍は滿洲に出動せざるべからざる環境の下におかれて居るから、將來日本軍を動かすといふ場合は環境の變化に應ずべきものであつて、豫め言譯すべき事ではない。環境の變化に誘はれて已むを得ず出動する様になるといふ事は抑々滿洲に對する日本の根本概念が確立してないからである。滿洲國を承認して、之と融合し、この地域にモンロー主義を證明することは經濟上の國際正義である、平和の原則に忠なる所以である。是がはつきりして居れば事を醸した翌日から言譯をしなくても宜しい。今の政府當局者は滿洲問題を家の飼猫が隣の庭をくわへて来た位に思つて居る、いゝ事して呉れたとは思ふけれども世間体を憚つて言譯する。さう云ふ心のさもしい外交は世界の侮辱を招き、世界の疑を招く所以であると思ふ。要求する所は率直に要求し「この要求を貫徹するには斯の如き手段を盡すものである」と云ふことを明白にすることが滿洲問題の根本である。

る、と私は斯様に信じて居ります。これが即ち領土に對する經濟正義の徹底を滿洲の一局部に適用する時の結論であります。

### ◇大衆生活の保障と滿鐵問題

第二 大衆生活の保障 大衆生活は之を絶対に保障しなければならぬ。明治陛下が「一人ノ其ノ心所ヲ得サル者アルハ朕ノ責ナリ」と仰せられた。補弱の責に任じて居る者が、失業群衆に溢れんとし、就職難天下に喧しい此の秋に於てうつつかりして居る氣持だけでもよろしくない。大衆をして生活せしめることに絶対保障が要る。百萬を以て數ふる失業者、之を放任しておく譯にはゆかぬ。生かさなければならぬ。如何にして生かすかと云ふことになる。外世界の問題に關聯し、内經濟政策の問題に關聯してさう簡單に行きませんが、先づ政治家の根本責任を大衆生活の絶対保障といふことに置くことが必要であると思ふ。滿洲問題を論じかけて居りますから、大衆生活の保障といふ原則の下に滿洲に發展するならばどうすればよいかといふことに先づ向つてみたいと思ふのである。滿洲の經營は今までのやうな營利主



義經濟では駄目である。日本がポーツマス條約、北京條約によつて滿洲の權益をロシヤから繼承した其の時には自由主義、營利主義全盛時代の空氣の中に於てとありますから致し方もありませんが、國家的經綸を滿洲に進むるといふ事はさも背徳行爲であるかの如き考へをみなが有つて居る今日、帝國の滿洲經營は絶対に營利主義ばかりではいけない。滿鐵もさうである、後藤新平さんが行つてから滿鐵は營利主義一點張りで行つた。營利主義で行くのだからお客さんを多くして儲ければよろしい、日本人が滿洲に發展しやうとすまいと、その妨げにならうとなるまいと、そんな事は構はない。滿鐵従業員の低級な所は大部分支那人を使ふその方が賃銀が安いから儲かる。日本が滿洲に投じた資本は支那の失業者に職を與へる事となる。工事をすると云ふては山東から苦力を入れる、それに汽船、鐵道の賃銀の割引をしてどん／＼これを運んだ。彼等がそこに群居するに至ることは日本人の發展を阻むものである併乍ら滿鐵はそんな事に關せず滿鐵自身が儲ければよろしい、澤山客を運んで儲ければよろしい。營利主義から申しますれば大連から奉天、奉天から安東縣、奉天から北に長春、それだけの鐵道を架けておいて他に鐵道を架設せしめず、あの廣大な地域に僅かな鐵道でこれを

獨占して置く方が一番儲かる。鐵道の大きいなる延長は全体資源の開發となつて、國全体から云へば利益であるが、鐵道會社の利益から云へばそんなことは必要でない。建設は進めないで今ある所だけで儲けるやうにしたい。即ちこの儲かばかりの鐵道を虎の子のやうにして、その沿線を綺麗に飾りたて、國際第一の立派な鐵道にするといつて、立派なホテルを作り、立派な料理屋を作り、甚しきは待合まで作つてしやあ／＼として居ると云ふに至つては滑稽千萬である。かういふ馬鹿な事をやつて居る間に支那はその第一幹線、第二第三幹線を作つて日本の滿洲鐵道に挑戦して來た。日本側から云へば長春から吉林を経て朝鮮國境の會寧に行き、會寧から清津に行く所のあの吉會鐵道架設の權利は何處に得られて居るか。其の一部工事の前渡金は、所謂西原借款の一千萬圓で、山本条太郎君の時に同君を経て出して居る。之が完成すれば吉林と北朝鮮と日本とを繋ぐ、此の日本、北朝鮮、滿蒙を接続する所の一大交通網を作ることが出来る。殊に朝鮮人は朝鮮の國境から安東方面にウンと入り込んで居る。安東は元來は朝鮮の國土であつた地方である。此の人々が本國との連絡を得、本國の後援を得れば、茲に經濟的融合を自然の間に促進することが出来る立派な鐵道である。之を架けな



かつたのは滿鐵の大連本位の經營方針に抵觸するからで、何とか彼とか云つて實行しなかつた。即ち日本の營利主義的滿鐵經營策が根本的に間違つて居る。斯ういふ事を訂正してか、らなければならぬ。滿鐵は滿蒙の資源を開發し、同時に日本人、朝鮮人が滿洲に出て行つて滿洲に於ける漢民族と共存共榮する媒介物としてのみ之を利用するといふのが日本の根本方針でなければならぬと私は考へて居る。それが爲には従業員には日本人をドン／＼使ふが宜しい、支那人を使ふよりは東京で教育した朝鮮人を使ふ方がよろしい、労働者も出来るならば朝鮮人を入れてやるが宜しい、特に支那人を排斥せよとは言はないが、其の營利主義的經營の中に國民主義的大衆主義的方針を包擁して居ることが必要である。是等の事は夙に考へて居らなければならなかつた所であらうと私は考へます。

### ◇大衆生活の保障と石炭問題

既に鐵道にして其の通り、もう一つは石炭であります。滿洲には撫順、新邱等新しい炭田で夥しい石炭がある。之を運賃を割引して安く持つて来れば日本内地で一噸九圓位で賣れ

る。さうすれば日本内地の石炭は少なくとも一噸十二圓位して居るから、安い五圓の石炭を持つて来て驅逐され、ば三井、三菱を始め日本の石炭業者は閉口するでせう。併ながら日本の石炭を利用する諸産業は茲に生産費を低減せられて大いなる利益を得ることが出来る。一見して大衆の爲には撫順、新邱の石炭を持つて来るが宜しいといふことになる。が併し、それを無暗にやれば日本の大會社が潰れる、大會社を潰してはならぬといふので此の石炭を制限して入れる、制限して入れるのみならず、撫順炭の專賣を日本の産業資本家に委して置いて、こゝで儲けさせる色んなカラクリをやつて居る。即ち茲に滿洲炭と日本炭の間に於て統制經濟を樹立する必要があると思ふ。私は滿蒙と日本とを打つて一丸とする統制經濟の樹立を叫ぶものである。ところが、此の間ラチオで放送しましたら、方々から誤解が来て「それでは日本の炭坑業は潰れて終ふではないか、ひいて炭坑業に従事して居る三十數萬の炭坑夫は失業するではないか」と言ふ。私はそんな亂暴なことをしやうといふのではない、五圓の石炭を直に持つて来て十二圓の石炭を排斥しやうといふのではない、撫順の石炭を持つて来るにしても、内地の石炭が十二圓だから、其の中を取つて五圓の石炭を八圓五十錢に賣つた



ならば三圓五十錢の超過利得がある。其の三圓五十錢を十二圓の石炭の方に賠償してやつたならば内地の石炭が下つて兩方とも八圓五十錢の價格になる。さうすれば誰も打撃を蒙らず社會でも何等の動搖を起さないことになる。即ち滿蒙の資源と日本の資源とを打つて一丸とする所の統制經濟とは斯ういふことを言ふのである。是は決して不合理ではない。私は此の通りやれといふのではないが、斯ういふ見當をつけるのは悪くはないと思ふ。何故かと云へば、日本の炭坑業者、資本家は貧乏人から見れば癩に觸るが、併し此の炭坑業者が賣る所の十二圓の石炭の價ひの中には國防費——海陸の國防費を負擔する、日本の文明を維持する諸行政費を負擔する所の諸税が盛り込めてある、即ち其の石炭の價格中には鑛山税、營業收益税、所得税、それから労働者の賃銀が含まれてゐる。労働者の生活を保障し、是等の政治機關を運用する爲の税金を負擔して居る日本炭と、無税に等しい滿洲炭を持つて來て其の儘競争させて潰して終ふ事になると、それは公平と言へない。既に日本と滿洲を打つて一丸としたる統制經濟を爲す以上は、滿蒙に於てと日本に於てと其の居住する人々の生活に對して平等に取扱はなければならぬ。滿洲は無税に等しい國である、來年の豫算は僅か一億二千萬圓

で、其の一億二千萬圓の行政費も大部分は日本から借りなければならぬ、政府が出さなければ三井、三菱で出すだらう。國防費は日本が引受ける、少なくとも五個師團は要るでせう。其の外に海軍も要るでせう。是だけは滿蒙あるが爲に日本の負擔が重くなる譯である。斯ういふものゝ負擔を日本に委せて置いて、そこで殆んど無税に等しい經營をやつて居る其の日本の資本と支那の労働者を使つた所の石炭で、日本内地の石炭を駆逐するといふ事は公平でなくて日本の産業の自滅である、數億の資本は姑く之を損せずと置くも、日本に數十萬の失業者を出すことになるは明かである。私は單なる目安を茲に捉へて居るのであります、九州炭も北海道炭も取過ぎて早晚自滅すべきものが大分ある、今でもヤツとである處もある。さういふ早晚自滅すべき運命のものであるならば、それ等の資本と労働者を一緒に結んで之を滿洲に向けて新たに投下することにする、即ち滿蒙の炭田と日本の炭田とを打つて一丸となし、國家の統制の下に自滅するものは自滅させ、殘存するものは殘存させて之を助長し、以て此の間を調和することに依つて茲に日本の燃料政策を樹立するといふことが、所謂滿蒙に於て日本と滿洲とを打つて一丸とする統制經濟を行ふといふ所以のものであると考へる。處





が今私の申すやうに「資本と同時に労働者を持つて行く」と斯う言ふと、傳統的自由主義の經濟は「資本だけは宜いが、労働者は向ふの方が勞賃が安い」といふ。之が自由主義經濟政策の傳統であり弊であるのであります。

#### ◇大衆的滿洲發展の爲に統制經濟の樹立

今日亞米利加に對して十對六の海軍を有つて居る此の國が、五個師團の大兵を滿洲に派遣して居るのは不自然である。併し外界の壓迫の下に維持しなければならぬ以上は、此の不自然を緩和すべき根本的政策を打樹てる爲の不自然は當然忍ばなければならない、即ち日本の労働者を組織して向ふに持つて行つて不可ないことはない、炭坑は稍々困難かも知れないが、掘出した石炭を以て火力發電をなし、電力となして諸工業を起す、此の工業に労働者が要するらば、日本の資本の働きに依つて可能とする所の産業には日本の労働者を持つて行くのは必然である。又若し日本の組織された労働者を使用して營まれた所の産業があるならば、其の生産品の日本へ對する輸出に對しては、支那労働者を使つて居る所の工場に於ける生産品よ

り特殊の便宜を與へてやるといふ位の政策は日本として大衆的滿洲發展の爲に今日考慮すべきであると思ふ。私の謂ふ可能なる方法を以て労働者を滿洲に働かせ、朝鮮の農業移民をも滿洲に送り、之に接援し、之を組織して、兩國の經濟的發展を旨く組立て、行く滿蒙と日本とを打つて一丸とする産業統制經濟といふものは、是等の産業の發達段階を旨く調節して共存共榮の途を講じて行くといふこと以外の何物でもない。掘出した石炭を日本に持つて來て需要がないならば之を以て火力發電に使へ、さうすれば安い電力が使へる。日本は豊富なる水力を擁して電力の點に於て世界に誇り得べきものを有つて居りますが、段々其の水力も良い所は使はれて終ふ。そればかりか各電力會社が對立して二重三重の設備をやる、他社との競争の爲に費用を濫費し其の結果は大衆に轉嫁される、だから日本の電燈は高い、動力も高い、隨て日本の産業の負擔が重くなる。而も日本の如き國では水量の増減が甚しい、増水期には澤山電力が出来るが、減水期にはズツと降つて終ふ、即ち増水期には山をなし減水期には谷をなす、電力に山と谷がある、此の谷を掘めて行かなければならぬが、山の時の儘に使ふと減水期に電力が足らない、そこで、今では主として減水期を基準として電力を作つて居



るから、増水期の餘剰水力といふものは水に流して棄て、居るものが多い。之を火力發電で出来れば非常に便利であるが、此のピークを調節し電力を調節するには、これは安くして豊富な滿蒙炭を用ふる時に於てのみ可能である。併ながら今迄のやうに對立競争、濫費、二重設備をやつて居る位なら助けてやつても無駄である。其の供給區域を農村に迄擴大するならば、それが電力價を安くする爲に安い滿蒙炭を用ひて行く、即ち、特惠を與へるが故に吾々の統制經濟に服せよ、統制經濟をとり特惠を與へ、之に依つて自由競争により共倒れとなつたものを生き遣へらせるといふと、石炭問題は電力問題に繋がる。電力問題は國家の統制に依つて今日の自由電力を少なくとも國家の統制下に置くといふ事に變更して行かなければならぬ。電力問題を考へて見ますと、滿洲に於ても安い火力發電が出来れば肥料工場も打建てる事が出来る。曾て滿鐵が硫安工場を建てんとした時に日本内地の肥料屋が總掛りで反對した。滿鐵に資本を投じて居ると同時に内地の肥料會社に資本を投じて居る人は「滿鐵が安い硫安肥料を造ると日本の流安肥料が困る、滿鐵に資本を出す者は俺である、同じ俺が困るなら向ふは止めて呉れ」と、此の資本主義經濟の矛盾が滿洲に硫安肥料の工場を建てることす

ら許さなかつた。これではどうにもならない。即ち茲に滿蒙と日本とを打つて一丸となし、肥料の統制を進めて行かなければならぬと思ふ。若し日本の資本家達が、滿洲で石炭も掘らせない、滿洲に硫安工場をも作らせない、滿洲で餘り米を作るな、斯ういふ馬鹿なことを言ふ位なら滿蒙を以て日本の生命線と言つて昨年来日本の人心を鼓舞してゐたことは皆んな虚偽である。虚偽であつてはいけない、又さうすることによつて日本の國內に於ける資本の押取率が高くなつたとしても、一定限度に達した後には、日本の個人經濟的資本が枯渴して死んで終ふから、日本の資本主義といふものは潰れて終ふ。私はもつと日本の資本が滿洲へ伸びて行かなければならぬと思ふが、唯資本が伸びて行つたのでは資本家の利益のみであつて大衆の利益にはならない、労働者もついて行かなければならぬ。資本だけ持つて行くとすれば、今迄日本に投ぜられた資本が引揚げられただけ日本の失業者が増し、反對に新たに滿蒙に資本が投ぜられただけ支那の失業者が救はれる、即ち日本の資本は日本で失業者をつくり滿洲で支那の失業者を救ふ結果になる。資本の逃亡は國民の逃亡するよりも最つと恐ろしいことである。私は茲に於てか、統制經濟の下に於て資本を滿洲に働かせ、此の資本を國家の



統制に服せしめ、同時に日本の人口を資本と共に動かし、所謂日本と滿蒙と朝鮮と樺太と臺灣と總てを打つて一丸とした所の經濟單位を樹立して、世界經濟プロツクの對立の中に善處することが必要であらうと思ふのであります。

斯の如く考へると石炭一つ考へて見ても、石炭の統制經濟となり、電力の統制經濟となり、流安の統制經濟となる。其の他森林を考へて見ても木材の統制經濟となり、紙の統制經濟となる。小麦を一つ考へて見ましても日本農村との關係が生ずる。大豆を考へても肥料と關係する。それを比較的破壊せずして建設に向つて一途に進進するといふことが今日の統制經濟の眼目である。私が統制經濟論を唱へると資本家は怯へるでせう、又一部の極左の連中はもう少し大膽に最左翼の言辭を採用しないかと云ふ、神經昂奮して居る者は過激論を叫んで襲來するかと思ふのであります。併乍ら私の言ふ所は破壊しないで建設に進みたい。ロシアの如きは資本主義經濟組織を破壊してしまつた、破壊した時資本主義經濟の一切が崩壊する、而してもう一度やり直はすのだ。あの大きな國だからそれがやれた、世界列國から羨むるに難き地域に在つたからそれがやれた。日本の如く資源少なく、狭く、外的環境に脅かされる、

境遇において、一遍破壊して生産過程を實驗してみやうといふのではありません。破壊した時は既に建設に接続して居らねばならぬ、破壊より建設に至る時差を極端に押縮めなければならぬ。この私の統制經濟は何人も恐るゝ事は要らぬ、又何人も避けることは出来ない、避ければ自滅にのみ近付かなければならぬ。即ち大衆生活の絶對保障を條件として滿蒙政策を考へる時に、茲に勃然として滿蒙と日本を打つて一丸としたる所の、資本だけが儲かるのでなければ又資本を移して失業者を作るでもない、資本を活用して國家の目的に合致せしめ、大衆の福利を増進せしめ生活の活路を開いて行く所に統制經濟の狙ひ所があるのであります。

### ◇生産力の増進と統制主義

第三 生産力の増進 生産力の増進は今申しました統制經濟であると思ふ。資本主義はその内部に矛盾を包蔵して居る。併乍らそれに長所ありとすれば、それは慾と二人連で働くといふことである。人間の活動は自己の慾望によりて拍車を加へられた時に非常に強化する、



自分の算盤に於て、力に於て働く時非常に強い、そこに資本主義の能率が残されて居る。單にこの個人自由の産業を國家に取上げたゞいで大衆の福利に合致するかどうかといふことは疑問である。日本は随分その意味において國有を有つて居る、鐵道が國有である、郵便、電信電話が國有である、鹽、煙草は專賣である、大分ありますが所謂國有に於てやつて居ることにあんまり成績の良いものはない。鐵道の如きは三十二億の資本を投じて居る國有である。國といふ時には我々はチャームを感じる。國有は官營である、官營はお役人仕事である、三十二億の資本はお役人によつて運用される。私は鐵道はお役人の封建だと思ふ。三十二億の資本を擁して國家の獨占權を有つて居るが、儲かつた金はちつとも國家へ納めてゐない。個人の營業なれば所得税を納める所を納めない、資本利子税其他一切納めない、而して儲けただけは鐵道で使ふ、まるで官吏封建のやうなものである。上の方の官吏だけは宜いが、資本主義の原則によつて下の方はやはり搾取されて居る。減俸をやらうとすれば鐵道の官吏がストライキをやる、百圓以上とか百五十圓以上の者の減俸に對して下の方の人が騒ぐのは、上の方が命令して反對させるからである。これは一種の官僚封建主義であると思ふ。それで

行く行くとはい思はない、要は統制の徹底であると思ふ。今日の鐵道は國有でありませうけれども常に鐵道に對して黨弊が入つて居る。床次さんがこの不況の眞最中に三千萬圓も公付公債を出して幾つもの私鐵を買ふ。買ふて貰つた鐵道會社は喜ぶでせう、その鐵道會社に金融して居る銀行は喜ぶだらうが、公債の濫發によつて日本の紙幣が不換紙幣になることがある。此の時に當つて假令交付公債であつても出すといふことは今日の時勢に合致してゐない、官吏封建制の中に黨人の私慾が入つて居る。國有官營でやつて居りますけれども新設延長には黨略と國有官營と一緒にやつて居る、丁度猫と狸との混血兒みたいなものである。それが今日の鐵道であらう。だからして國有といひ、國といふチャームに引張られて居るかも知れないが國有官營であるといふことが良いといふことは私は考へない。然らば私有が良いかと云へば、某電燈などは私有であるが随分無茶なことになつて居る。某電燈のみでなく對立して居る電力會社も自由主義營利主義經濟、個人主義經濟でやつて居つて随分無茶なのがある。あれだけの大資本になると、そこに大なる矛盾を包藏して無茶苦茶になつて居る。官營だから良いとも云へず私營だから悪いとも云へない、官營たると私營たるを問はず茲に國家の目



的を体得した一つの系統的統制が徹底することによつて能率を有効に用ひて効果が高められて来るのであつて、私は茲に生産力の増進を目的として統制経済を徹底せしめるといふことが我々の考へでなければならぬと思ふ。私は實際問題を複雑に考へて居る者であります。マルキシズムも諸君と同様多少は讀んでも見ました、これに對する批判も見た。併しイズムが既に決定して下れば、そこに一種の保守的傾向を帯びて来る。私は資本主義が一つのイズムであらうと政策であらうと、社會主義が何であらうと、正反合の原則によつて、資本主義を修正しやうとも社會主義を緩和しやうとも云ふのではない。これと異つた合理的の一つの國家統制主義といふものが生れて来て、國家の目的の爲に、大衆の福利の爲に、總ての自由經濟、國有經濟に向つて統制を徹底せしめる事が今日の急務であると斯様に信ずるものである。箱庭的の日本に國家社會主義を適用してみた所でどうにもならない。私はこの統制は國內の産業に統制を加へるのみならず、國家を一單位として國際關係に向つても統制を加へたいと思ふ。私はイズムを定めることは嫌ひであります。曩日社會民衆黨が分裂した、一派の人は國家社會主義へ轉向する、一派の人は社會民主主義で行くのだ、と愚しい喧嘩をしてそ

の後で互に證明を發して色々言つて居る。滑稽なのはあゝ云ふ人達の自己陶酔である。自分等の少數の同僚が喧嘩して別れた時に「日本社會主義の轉向に於て歴史的事實が茲に捲起された」と仰々しく證明する。然らば國家主義に轉向した翌日から何をやつてゐるのか。國家社會主義に轉向した人は滿蒙に對して積極政策をとるのか、社會民主主義を奉ずる人は滿蒙拋棄論でもやるのかと云ふにさうではない、何も違はない。あゝ云ふ争ひの中に餘り陶酔して來ると、それが政治運動ではなくして學校の教室の討論の延長に墮する虞れありと私は信じて居る。私は私の使命を果す爲に俺の行動が裏書するイズムで以て進むのだ、之を假に統制主義といふ。一休俺の主義は何であるか、私の友人杉森孝次郎君が之に名附けて、君の違方ならば「社會國民主義」といふのが適當である、社會とは人類社會である、人類の生活する所の世界、交通通信の接続する所の全人類の世界、内は國民を基礎とした統制所謂國民單位の統制を爲す、外は國民を基礎として國際社會に向つて統制を加へる、内外に向つて統制經濟をやる。國民社會主義と違ふ所は國民を基礎とする社會主義ではない、社會を對象とする國民主義——社會主義に非ずして國民主義だ、社會を對象とする國民主義といふことに名



をつけたが宜いぢやないかと云ふ。あまり學問のない私だから、それもよからうと一度これを説明すると、大抵の新聞に國民社會主義と書いてあつた爲め、中野が社會國民主義を唱へて居ると言ふ者は少なく、國民社會主義運動といふことになつてゐる。併し私は假にイズムを附けるならば社會國民主義だと云ふのである。これが國家社會主義に誤られると、國家社會主義といふものは國有民營を一律にやるといふことになります。その國家社會主義と云ふものは別に新しいものではなくピスマーク時代からの問題であつて、これに對する批判も議論も充分に下されて居る、元來外國製のものである。これに對する誤解もあり混同もある。さういふ文字を適用し來つて、俺は此處の何派に屬し、此の點は又何派とも違ふといふやうな事を云つて居ては大衆の諒解に苦しむ所である。社會民主主義と云つても國家社會主義と混同される。そこで新様に混同される位ならば私はやつぱり社會國民主義と云はないで國家統制論を以て一言したいと思ふのであります。

#### ◇マルキシズムが讀損はれて日本に與へた損害

私はこの今日の失業を救ふ所の實際政治運動は國民主義の運動でなくてはならぬと思つて居る、階級主義政黨では今は問題にならない、もうマルキシズムが讀損はれて以來幾多の損害を日本に與へて居る、幾多無用の闘争を繰返して居る。

諸君、農村において農民に對して社會運動を教ふる者、農民運動を教ふる者は學校出のインテリであつて、コンミュニズムを其の儘ぶち込んで行つて階級闘争を其の儘激成して行つた。學の乏しい農民は階級闘争を闘つてみた。闘つて見て一体どうなつたか。十町歩程の土地を有つて居る人を地主とし、其の小作で働いて居る者を小作人と稱して此の間に激烈なる喧嘩をやつた。今日五町や十町の土地を有つて居る地主はその土地改良の爲に金を借り、更に又夥しい國稅、地方稅、附加稅を課せられる、さうすると小作から取上げた物を政府に入れ、了へば殆んど残る所はない。地主は讓られるだけ讓つてしまつて對立してゐる、もう少し地主が讓れば地主そのものが潰れかゝつて居るから土地を拋棄して逃げてしまふ、小作人は固より苦しいのだから讓歩すれば餓死してしまふ、双方とも行詰つて居るのであつて、この問題を階級闘争によつて解決すべき部門といふものは極めて少なくなつて居る。今日の問題



は、農村では地主對小作人の對立闘争によつて解決すべきものでなくして、農村そのものが生きるか死ぬか、農民全体の運動である。この運動は階級運動よりは國民運動として白熱化すべき物があると私は信ずるのであります。私の知つて居る小學校教員の未亡人がある。其人が亭主の貯金二千圓を基礎に、銀行から二千圓を借りて、四千圓で借家二軒を建てた。その一軒の借家に居る先生が無産黨の闘士で、借家人同盟といふものを作つて大いに奔走する曰く、地主と家主とは同じ資本家である、その資本家の搾取に對して我々は闘争しなければならぬ、闘争によつて我々はこの搾取を拒絶せねばならぬと直接行動によつて家賃を拂はぬ、拂はぬ先生は或は會合に於て酒を呑んで騒ぐ、或る場合は自動車を走らせて三圓五圓の金をばらまいて飛廻つてゐる、家賃を拂はれない未亡人は銀行の借金を背負つて、家賃は踏倒され、横暴なる家主を懲罰する、胸懲すると云はれ、出る時には立退料を呉れと云はれては堪まらぬ。愚かなる階級闘争の闘士よ！それでは僅かな資本を持ち、二千圓の借金を背負つて居る個々べき知識階級の、後に残されたる貯へなき者であるといふことを知らないものである、そんな馬鹿なことは成り立ちません。最前も申しました通り日本に於て工

場労働者の中で一番苦しめられて居る者は中小工業の労働者である。而も中小工業に従事する者が非常に多い。大工業に従事して居る労働者はその團結權により、團體契約權により、闘争により、時間も賃銀も設備も可成り固み取つて居る。これ以上は産業が潰れるか、減首さへなければ先づ宜しい、一番いけないのは中小工業労働者である。待遇が悪い、悪いけれども階級闘争によつてもう少し條件を改善しやうとすれば、もうその産業を有つて居る親爺が潰れる、二千圓か三千圓の手形をどうにかやつと間に合せて居る有様ではストライキでもやられたら堪まらぬ、一遍に問題なしに潰れてしまふ、潰れれば失業しなければならぬ。中小工業といふものを如何に今日に於て救済し、如何に明日に於て階級問題といふことを展開させるかといふことは、これは労働問題ではなく國民運動の一つの題目として全民衆の力を以て解決せらるべきものであると私は信じて居る。茲に於てか私は社會主義の志はよろしい階級闘争も、その手段として唱へられたる精神はよろしい。併乍ら私共は社會主義よりその目的——分配の公平といふ目的、事端の公平といふ目的を探る、而して能率増進に於て資本主義の手段を取る、その手段によつてその能率を増進すると共に、茲に産業を統制し分配を



再吟味して行く、即ち統制経済によりて國民的福利を増進する所の運動がなければならぬと私は思ふ。即ちこれが私の社會國民主義と稱し又統制経済と稱する所であります。

### ◇自由主義經濟論と統制主義經濟論の衝突

我々は民政黨に所屬して居る時にこの統制經濟を實現しやうと思つた。井上さんが金輸出解禁をやり、デフレーションをやり、低物價政策をやつたその當時にこれを説いた。統制經濟を進めたい、即ち鐵産業を統制し、硫安産業を統制し、電信電話を増設し、その材料を低廉にし、架設料を低減する。この低物價政策の上に國民の福利を増進したい、整理緊縮によつて國費四億圓を減じたる時には、この四億圓に關聯して一般の經濟的活動は十億圓或は數十億圓停止される、例へば一人の官吏を減首すれば忽ち收入がなくなるから消費をしなくなり、さうすれば官吏が減首される割合に於て官吏町の市民階級の利益は還滅されて行く、茲に官廳の工場が閉せられるとすればその労働者は失業する、失業する限りに於てその工場町はさびれて行く。茲に一千萬圓の補助金が或る土木事業に對して停止されると、その補助

金を中心として動いて居つた所の一千萬圓だけの工事は停止される、そこに労働者の失業が出來、技師の失業が出來る、さうすれば購買力がなくなるからその社會は淋れる。斯の如くすれば整理は、國家と云ふ消費者がその消費を節約したる限度に於て購買力を減じ、これを中心として販賣する經濟的活動が停止される。茲に於て四億圓の國費を節減したるときは、十數億圓の經濟的活動を誘導する政策が必要であると私は唱へた。恰もよし世界が關稅政策、通貨政策、貿易政策に擧げて熱中して居る時である。此の時にフリー、トレードを夢見て居ては駄目である。金解禁をやれば金の値が何割か回復される、日本の貨幣價値が増大する、爲替が三割位回復する、爲替が三割回復すると云ふ事は日本の金が海外に於て三割だけ購買力を増すと云ふことである、購買力を増すと云ふことは外國品がそれだけ安くなつて來るといふことである、結果に於て日本の關稅が三割だけ低くされたといふことになる、さうすると外國品が潮の如く日本に押寄せ諸産業はこれに對抗出來なくなる、對抗出來なくなればその産業は潰れて失業者が出來る。それ故に日本の基礎的産業（ペーシツク、インダストリー）には特別の關稅政策を講じて、これを保護してやらう、保護される者は資本家であるが、そ



の代り統制経済によつて産業各部門は失業者を出すべからず、その産業は保護せられたる一定の期間に於て、保護なくして存立し得るやう産業内部の改造を断行すべし、合理化を實現せよ、即ち保護を與へると共に國家の統制に服せしむるといふ事を條件として、私はデフレーション進行過程が行詰らうとする時、これを救済して統制経済の必要なる所以を力説した。即ち私が在官中企てた電話案、その頃盛んに内閣に於て公表して居つた製鐵案、自動車工業案、硫安肥料案、總てデフレーション進行過程に行詰つたる時に統制経済によつてこれより生かして行かんとする政策であつて、私が之を論ずると井上さんが「議論では負けるから賛成だ」と云はれた。賛成だと思つて、さて立案し、聲明し、畫策して居ると云ふと何時の間に於て傳統自由主義の經濟論に還り自由貿易主義に還つて、遣らうと云ふ事は無茶苦茶になつてしまふ。大藏大臣がやらなければ大抵の事はやれない。そこで我々がデフレーションの進行過程に於て實現すべしと云つた統制經濟政策も行はれなかつた。金輸出解禁をやつて關稅政策を講ぜず、我國の産業を裸にして置いて世界産業の蹂躪に任せたら産業が立ち行かなくなる。其の上に低物價政策を講じてゐるので物價は何處まで下るか分らぬから、今物を遣れ

ば損だと云ふので産業は手控へととなり資本は動かさずして眠れて居る。濱口、若槻内閣の時に於て、動かさせざる資本が已むを得ず無利子で日本銀行に三億も四億も預けてあつた。無利子の金を預けると云ふことは資本の隠匿逃亡である、資本の隠匿逃亡も國內に於て行はれて居る間は宜しいが、これが外に出ると、英國に行けば磅買となり、米國に行けば弗買となる。故に資本を死蔵してはならぬ、活動させなければならぬ。活動させるには基礎産業に於て關稅政策を執り、關稅政策をとる事によつて統制を強める。無利子の四億の金は何處にでも逃げ出す虞れのあることは、私が會て豫め明言した所である。九月十八日に滿洲事變が勃發し、九月二十一日にイギリスの金輸出再禁止が行はれた。私は九州に病氣で仆れて居つたがこの情勢を見て東京に馳せ戻り各大臣に面會して大いに力説した。若槻男には殊に力説した。資本を動かさずして死蔵して居つたからこの資本は利子の附く所に遊びに出てイギリスの銀行に行つた。然るにイギリスが金輸出禁止をやつて腐りついたから決済が不可能となつたので今度は弗買に行かなければならぬ順序となる。滿洲問題が勃發し全支那が排日となり更に又支那人の勢力範圍たる南洋一帯が排日となつて日本品は買はなくなる。支那を中心と



して動いて居る海運業——香港、新嘉坡、上海を中心として世界に動いて居る海運業が港に寄つて船がガラ空になつて働けなくなる。こゝに於ても日本に入つて来る金が減つて来る。輸出が減じ海運業が自滅し茲に受取勘定がなくなつて支拂勘定ばかり多くなると日本の金はドン／＼海外に出て行く、而もイギリスが金の輸出再禁止をやり爲替が安くなつた、爲替が安くなつて英國の海外輸出品の値が下つて来る、即ち低物價、低爲替の下に於て英國は大戦中より大戦後に日本に奪はれた支那の市場を奪回に来る、その奪還の手段として排日を煽動する、日本の輸出は減退する、海運業は潰れて、英人に取つて代られるといふことになれば支拂勘定は益々多くなつて日本は到底正貨を維持することが出来なくなるだらう。今や世界の十一ヶ國がイギリスの例に倣つて再禁止をする、その中に立つて形勢を見て、どうしても日本は再禁止をやらなければ仕方があるまいと云へば、再禁止をやれば貨幣價値が下る、下るなら今の中に日本の金を持出して置いて、下つた時外國貨幣を以て日本の金に換へれば利得があると云ふのでグン／＼弗買として逃げて行く。政治家は弗買を罪魁として攻撃するが、攻撃するだけでは不可ぬ、政治家は権能を有つて居る、大蔵大臣の指一本でこれを差止

めることが出来る。「已むを得ずんば再禁止をする」と井上さんがそんな理論だけ世間に漏らした時、再禁止を説いたからもう成功しさうだぞと見れば日本の正貨は加速度にグン／＼逃げて行く。丁度動脈を切つて血が出て居る時に再禁止と云ふ踊りを踊れば益々血が出る、だから議論にしても再禁止を云々するは不可である、これが私共の論争であつた。對支問題に對しては幣原外交のイデオロギ―を匡正する、財政問題に對しては傳統經濟主義を棄て、統制經濟に移る。その傳統的自由經濟の行詰りが弗買となつた、この實情を打開しなければならぬ。政友會と民政黨とは共に日本の二大政黨なるが故に歩み寄りてこの滿洲問題と金融問題を明白にして協力内閣を作る必要があるといふのが我々の先聲安達氏の唱へる所であつた。私はこれに同意した。私が同意するのみならず若槻氏が最も同意した。若槻氏が西園寺公を訪問し、安達氏をして老公にこれを報告諒解せしめた。この問題には民政黨に於ては富田幸次郎君、頼母木桂吉君、永井柳太郎君、山道襄一君、それに私、當時民政黨の中堅幹部と稱せられて居た五人は皆これに參畫した。その中の一人は血を嘔つてもこの問題の達成を期すると云つた。或る一人は、今まで安達氏を黨人として觀て來たが今日國士としての安達氏の



面目を知ると云つた。處が、問題が行詰つて、井上さんが爲替の統制賣をやり始め、弗買があるなら弗賣をやれ、賣つてく、賣り浴せておいて年末になつて金融を引締めてやれば資金がなくなつて買人はヘタバルだらうと弗賣を始めた。弗買が怪しからぬなら禁止するなら宜しいが、政府が賣りに廻つておまけに金融を引締めて買方をぶう潰してやらうといふ、是はインチキ賭博の一種である。さういふ事は當てが外れるが故に大變な事が出来る。あとから蓋を取つて見れば統制賣七億數千萬圓、これだけの正貨が流出するといふ、その大失策が行して居た眞最中であるから、天下の人と共に襟懷を開いて協力内閣を作ることにはあの人に取つてはいやだつたでせう、だから若槻氏を説き伏せた。若槻氏が途中から宙返りすると血盟五人組が大部分崩壊して、國士としての安達謙蔵の姿を見ると云つた人が、安達は民政黨の反逆者なり、と云つて居るのは滑稽千萬である。これは餘談ではありますが、斯の如き争ひが起つたその根本は自由主義經濟論によつて財政をやつて行かうと云ふ井上君の考へ方と統制主義産業政策を基礎として日本の財政を繰つて行かうといふ私共の考へ方との衝突、言ひ換へれば二十七八年頃大學を優等で出た連中の考へと、民間で苦勞して叩き上げた人間の處

世流の考へ——それは大衆の生活上の本論より發する呼聲である——とが衝突した原因であらうと思ふのであります。

### ◇國民運動を基礎としたる政黨の出現を望む

私はデフレーション（緊縮政策）の進行過程の中に於て統制經濟を主張したが行はれず、今度はそれが行詰つてインフレーション政策に轉向して來た。そして仕方がないから金の輸出再禁止をやつた。是は何も政策があつてやつた譯ではなく當面の急を救ふ爲に仕方がないからやつたのだ。膨脹政策に目的があるのぢやないが國家の信用によつて紙を出して行つた是は彌蓋して自滅に近づける營利主義經濟をそのまま踏襲するならば當然歩んで行かなければならぬ宿命の過程を辿りつゝあると思ふ。今日に至つて事を爲すことは井上財政の下に於て事を爲すよりも猶ほ困難である。あの時に於ては兎に角見極めがついた、併しながら、インフレーションをどの程度迄やるかといふ事に就てハツキリした認識を政府が打建てらるならば、其の認識を基礎としてそこに又最後の部門として統制經濟を行ふことが出来る



私は思ふ。爲替は幾ら下るのか、五十弗の爲替が今は三十弗に下つて居る。假りに二十五弗に下ると假定するならば、二十五弗に爲替を落付けて置く確心を有つて居るか、それが出来れば苦心は要しない。政府が二十五弗に見當を付けたならば、若し此の二十五弗より下る時には貿易の統制を斷行する、此の決意をして之を天下に聲明するならば、貨幣價值が半分になるならば通貨は倍になつて宜しい。通貨を倍になす過程の中に於て茲に一つの統制經濟を行ひ、此の通貨膨脹政策に依つて救済すべきものは救済し、救済されることに依つて統制に努力しなければならぬ。證券界を救済するに就ては銀行に對する統制全てを計畫して最後の一戦を試みることが今日に於ても必要であると思ふ。併ながら今の政府當局者にはこんな根本的概念がない、頭が痛いからと云つて、腹の中に腐敗食物が入つて居るといふことを知らないで唯頭ばかりに膏藥を貼つて平氣である、梅毒の結果關節が痛むと云つては關節に膏藥を貼る、斯ういふ部分的の療法しか知らない、米を知らぬ、蠶絲を知らぬ、不動産の資金化をすべき連綿せる一つの体形をなせる所の概念がないからこんな内閣當局者に建直しが出来るとは思はれない。併し吾々は見當が付いて居るから一言せざるを得ない。行はざる所と雖も

強ひて言はざるは武人ならざる行爲なりと思ふが故に言ふ。此の現内閣のインフレーションの進行過程に於て統制を違むると云ふこと、滿蒙發展の進行過程に於て統制經濟を進めると云ふことを同時に考へると、石炭を考へても日本統制經濟に入つて来る、鐵を考へても其の通り、礦安を考へても、米を考へても統制經濟に入つて来る。其の統制經濟には資本を統制するのみならず、勞働をも統制し、居住の移動を統制する、國民的態度迄統制するに至らなければならぬと思ふ。私が先き述べた如く滿蒙政策を基調として國家の統制經濟を打建て、行かなければならぬ。之を實現する所の勢力は國民的勢力でなければならぬと思ふ。併ながら三百餘名を取り得たる所の大政黨と雖も何等爲すことは出来ない。何故かと云ふと全般的統制經濟を行ふことが如何に困難なるかを立證して居るものである。あの部門を押せば此の部門が反對である、此處を押せば彼處で反對である、其の矛盾全体に向つて強壓を加へ合理化して行くといふことは強き政黨のみ之をなし得ると思ふ。三百餘名の政黨が何にもやり切らないが、選挙に於ては目がない、政友會には巡查がついて廻つて與黨候補者の投票を買収する、反對黨の候補者にはそんな行動を許さない。地方に於ては政友會系の人間を警察署長に



する、警部にする、すると其の翌日から政黨本部に於て選舉干渉の對策を協議して居る。こんなことならば立憲政治は形式である、國民の總意を選舉を通じて現はすのは形式のみである、誤魔化して裏で得たる三百餘名は民衆の意思と繋つてゐない、何等大衆の希望と接続してゐない。そんなものだから何をすることも出来ない、貴族院の反對に遣へば參つて終ふ、樞密院に臨めば、軍部にホウつかれる、更に又資本家から睨まれ、ば尙ほ閉口される、何にも出来ない。斯ういふ多數政治、斯ういふ政黨政治、斯ういふ議會政治はものにならぬと思ふ。即ち吾々はもつと強力なる、組織ある政黨が必要である。強き組織たるには何が必要であるかと云へば、今迄の政黨人の如く「お互に悪いことをやつて居るのだから」と云ふのでは仕方がない。強き團體は團體の中の相互の間に強き制裁力が要る。西郷隆盛の一萬五千の子弟が何故強かつたかといふに、身を以て道に當る西郷南州の志に依つて統制せられ、此の道を勵むことに於て仲間の制裁が嚴重であつたからである。露西亞の共產黨も此の故に強い、伊太利のファツシズムも此の故に強い。此の仲間の制裁が嚴重でなくてはならぬ。正義を以て相交ゆる仲間の制裁は外に對する制裁より嚴でなくてはならぬ。小川平吉でも三木武

吉でも人間なら當選したのが嬉しいといふ根性では駄目である。世間でも排斥する人物は當然東京に於ても排斥するのである。而して正義信義を以て交ゆる所の團體、是でなければそこに本當の組織として相見えて、天下を争ふことは出来ない。更に天下に其の志を通ずるには話だけではいかぬ、大衆の志を通ずる組織をなし、議會に於ける強烈なる輿論を作ると云ふ意氣込みの下に議會に現はれたる代表者をして眞の活動をせしめるのでなければならぬ。私達が若し眞の必要ある政黨を作るにはどんなものが良いかと云ふ質問を受けたならば、それは既成政黨のやうで宜しい、併ながら是だけではいかぬ、それ以外に背後に大衆を組織し國民を組織して行かなければならぬ、國民的大運動を基礎としたものでなければならぬ。此の國民運動を基礎とする所の内閣が出来ざる限り新しき日本の前途を開拓するが如き政策は行はれるものでないと思ふ。私共は議會主義である、併ながら議會主義のみではない、議會は手段である、國を救ふが根本の目的である、國民を活かすのが根本の目的である。國が非常に困難する時と困難によつた時には大勢の人では決まらぬことがある。急なる時に身を抛つて事に當らなければならぬ、或る場合には血を踏んで譲らざる、或る場合には鐵火を浴



びて立ち退かざる強き決心、其の決心を有する者を中心とし正義を以て新しき國民的政治を  
しなければならぬ、私の志はこゝにある。今や天下には幾多の重大問題が眼前に横たはつて  
居る、政治家がウツカリして居つては大衆生活が片つ端から壊されて行く、農村の窮状はど  
うであるか、滿洲の内部の態たらくはどうであるか、是等の現状は必ず中央政界に反映して  
來なければならぬ。此の變革の時機に當り諸君に對し私の未だ實現せざる、未だ表面的には  
着手せざる抱負の一端を述べて御諒解を求めんことを光榮と存じます。

(拍手) — 終り —



詩由自

桐の花

風なき北國のたそがれ  
ふうはりと

音もなく落つる

桐の花のうす紫

しんなりと泌みる心の柔さ

しみじみと淡き

ツキオリンのゆれびき

しのびよるリードの匂ひ

しなやかなシートを踏む如し

北國のたそがれ時

ふうはりと桐の花散る

中村 稚羊





短歌

雜三首 中村稚羊

蒼空に雲なく山は緑して  
筑紫の原に月見草咲く

晴のさざりのおくにさむる百合  
みつめてあればみにいたくしむ  
ひろこれる青海原や女男波  
うつは二人の心の曠かな

俳句 石原款冬

驚馬瘦馬馬車つきかふる柳かな  
膳の隅葉に火のある目刺かな  
燕にひねもす空らの既かな  
山深く彼岸の一路つゞきけり  
燕や苗代見ゆる大間口

課題

選者 中村稚羊

自由詩「雨」

短歌「新緑」

選者 石原款冬

俳句「夏の月」

◇短歌 五首以内

◇俳句 五句以内

◇切 六月十日

(第四輯に掲載)

◇其の他隨筆の投稿大歓迎

交通網と會員クラブ

青空を我もの顔にプロペラの音もせわしく  
飛翔する空の王者、砂塵を立て、突進す  
るトラツク、ノロマな電車をハガユさうに  
抜切つて行く無数の空自動車、何物もナギ  
倒さん偉力を以て悠々と走る機關車の群、  
水の世界を獨裁する蒸汽船、全く今日は交  
通網に於て至れり盡せりの時代である。さ  
うして之等の機關に負ぶさつて吾等の通信  
は、昨日の百里も今日の五里、明日の千里  
は一跨ぎ、と東西南北を自由自在に往來す  
る。これが現代の機械文明とかいふもの、  
題であらう。併し吾等にはもつと、偉大  
な過去數千年來興へられてゐる交通機關  
(艱難があるか)がある、見知らぬ人と  
も接觸し、離れて居ながら直接語り合ふ、  
斯れば十年の知友よりも會話し感ずる。

此の便利な時空を殆んど超越した親和機關  
即ちそれは詩歌、俳句等に現はれる文藝上  
の精神的交通網である。吾々は幾らす今後  
この交通網を通じて會員クラブに集合し、  
親しく語り合はうではありませんか  
(クラブ記者)

編輯便り

中村稚羊先生 に詩と短歌

石原款冬先生

に俳句、の選をして頂く  
やうに懇請致しましたところ、本會の企てが非常  
に有益なものであることを御認め下さいまして、  
御快諾を頂きましたので、今後兩先生を選者に選  
へて茲に會員クラブ欄の成程を並へ、皆さんから登  
々多くの投稿を御待ちして居ります。



贊助員

大審院部長 法學博士

齋藤 士

著述家

後原 院長

東京毎日新聞社理事

齋藤 士

齋藤 士

理事

日清製油株式會社  
橫濱支店長

法學士

元關西大學教授 文學士

員 (順序不同)

泉二 新熊 氏

谷村 唯一 郎 氏

昇 曙 夢 氏

後原 純 治 氏

大岡 亮 義 氏

西元 禎 氏

中村 稚 羊 氏

石原 款 冬 氏

奧山 八 郎 氏

幸田 友 惠 氏

森 田 敏 氏

櫻井 匡 氏

昭和七年五月廿一日印刷  
昭和七年五月廿五日發行

(非賣品)

東京市芝區平町三十四番地

發行人 嘉藤友惠

東京市芝區平町三十四番地

印刷人 原 誠 一

東京市牛込區本村町三十四番地

印刷所 文 英 堂

東京市芝區平町三十四番地

發行所 東京中央講演會  
電話芝(43)八一八番

不許轉載



